

AsahiKASEI
旭化成ホームズ



このアパート経営の決断は
老後の安定収入と、
安心の相続対策になる。

土地オーナーS氏が、自分と子供達のために選んだのは、
旭化成の[30年一括借上げ]お任せ賃貸経営、
という相続対策だった。

「子供達に、苦労は相続させたくないからね。」今年1月から新税制が施行され、実質増税となった相続税。その対策にS氏が選択したのは、旭化成ヘーベルプラザの専門スタッフの提案だった。煩雑な管理業務や入居者の対応などすべてお任せで、30年間安定した収入が得られる[30年一括借上げ]お任せ賃貸経営、S氏の事情に沿った収入の確保、さらに相続・引継対策など、トータルな提案に「安定した賃貸収入が得られ、賃貸経営経験のない子供達にも安心して引き継げます」とS氏。そして好天の吉日、[30年一括借上げ]を採用した魅力的な佇まいのS氏のヘーベルメゾンは竣工した。入居者の反応も上々だという。節税効果と引き継ぎ後を考慮した資金計画もしっかり練られているので、「これで私も子供達も安泰です」とS氏は胸を張った。

「お任せ賃貸経営&よくわかる相続対策」資料セット進呈!

賃貸経営を丸ごとサポートする[30年一括借上げ]お任せ賃貸経営と相続対策について解説した《資料セット》を差し上げます。ご希望の方は、下記の資料請求フリーダイヤルもしくはホームページからお気軽にお申し込みください。

0120-063-866 ヘーベルメゾン | 検索

お任せ
賃貸経営
&よくわかる
相続対策
資料セット
ヘーベルメゾン

●エリアによってはフリーダイヤルがおつなぎできない場合があります。お手数ですが、ホームページかハガキでご請求ください。●携帯電話によるお申し込みは、フリーダイヤルをご利用ください。●ハガキでの資料請求をご希望の方は、住所・氏名・電話番号・建築予定地をご記入の上、〒530-0015 大阪市北区中崎西2-4-12 梅田センタービル27階 旭化成ホームズ集合関西支店 までお送りください。

*30年一括借上げ…旭化成ホームズ(株)でお建ていただいた新築賃貸(自宅併用含む)を、旭化成不動産レジデンス(株)がオーナー様から30年一括して借上げ、賃主となって一切の管理・運営を代行するシステムのこと(法1)第15年目安の弊社長期修繕プログラムに基づくメンテナンス工事の実施などが前提となります(注2)2年毎に家賃の更新を行います(注3)このシステムは、エリア・物件によっては、ご利用いただけない場合がございます

ロングライフ賃貸住宅。
ヘーベルメゾン

大阪医科大学 仁泉会ニュース

平成
27
年
度
仁
泉
会
總
會
が
行
わ
れ
ま
し
た



仁泉会ニュース 第46卷第4号
発行所 〒569-8686 高槻市大学町2-7
電話 072-682-6166 FAX 072-682-6636
発行者 河野 公一 発行部数 6,100部
URL <http://www.jinsenkai.net>

目次

- P3 大阪医科大学仁泉会理事長再任のご挨拶
学長退任のご挨拶
P5 平成 27 年度 仁泉会総会 開催報告
P14 平成 27 年度 大阪医科大学入学宣誓式
学長告辞
P15 祝辞
P17 気になるあの場所・あの人
編集部がジャストミート
「大阪医科大学訪問看護ステーション
林佳美管理者に聞きました」
P20 学会報告「第 25 回日本頭頸部外科学会を
開催しました」
P21 支部だより
平成 26 年度仁泉会愛知県支部総会新三水会御報告
P23 仁泉会福井県支部だより
P24 平成 27 年度仁泉会大阪府支部連合会支部長会
仁泉会大阪府連会長就任(再任)に当って
P26 平成 26 年度 尼崎伊丹支部総会
P28 平成 27 年「仁泉会姫路(播州会)地区総会・
学術講演会」報告
P29 受賞・受章報告
役員交代
P30 クラス会だより
平成 27 年度「学四会」開催
P31 38会(昭和38年卒、同期会)報告
P32 学14期卒後50周年記念36回同窓会
P34 学24期(あかつき会)クラス会報告
P35 仁泉ひろば「本学の手術件数(2015年度版)」
P36 まんが
P37 リレーエッセイ
八起会開催のご案内
P38 新聞切抜
坂哲郎先生(学32期)
佐々木恵雲先生(学35期)
安田由紀子先生(学49期)
P40 会員追悼「芝山先生の思い出」
P42 本部だより
会員計報
P44 編集後記

大阪医科大学 仁泉会理事長 河野公一
学部23期生 竹中洋

大阪医科大学学長 竹中洋
大阪医科大学 仁泉会理事長 河野公一

寺田哲也(学41期)

石垣宏(学16期)、神谷鉄彦(学14期)
原隆(学47期)
中透(学25期)
佐藤公彦(学12期)
鈴木克司(学31期)
岡村信介(学23期)

横山光昭先生(学19期)、茂松茂人先生(学27期)

西村保(学4期)
太田稔(学12期)
島田真久(学14期)
森本博子(学24期)
西村保(学4期)
ハリー・ほん太(学31期)
一ノ名正(学31期)

安積正作(学35期)

理事長再任のご挨拶

一般社団法人大阪医科大学 仁泉会理事長 河野公一

会員諸先生には、平素よ
り大阪医科大学仁泉会の活
動につきまして、種々ご助
力ご助言を賜り厚く御礼申
し上げます。

この度大阪医科大学仁泉
会理事長に再任されました
学部 21 期(昭和 47 年卒)
の河野公一です。

大阪医科大学仁泉会は昭
和 7 年に高医 1 期生 186 名の先輩諸兄がご卒業以来、
わが国有数の私立医科大学同窓会として歩んで参り
ま兄がご卒業以来、わが国有数の私立医科大学同窓
会として歩んで参りました。その後歴代理事長のも
と、会員相互の親睦を図り、母校の発展と学術交流
の振興に寄与し今日に至っております。現在、5,500
名に及ぶ会員諸先生がわが國のみならず、世界各地
で地域医療保健の担い手として活躍をされています。

その輝かしき歴史と伝統のもと、一般社団法人大
阪医科大学仁泉会としてスタートして 2 年が経過いた
しました。この間新定款に基づき、公益目的事業
である、学術振興研究援助および本学医学部学生への
奨学金貸与の 2 大事業を柱に、一般事業である創立
90 周年・100 周年募金活動を中心とした本学への
後援、会員の福利厚生への支援、仁泉会組織強化に
関する事業など様々な取り組みを行って参りました。

中でも仁泉会の活性化と組織率向上活動の一環と
して、また各地区の仁泉会諸先生のより活発な交流
と、今後の活動に関するご意見をお聞かせ願うこと
を目的として、昨年は関東地区合同の総会を、また
今年 3 月には四国 4 県合同の仁泉会を高松で開催さ
せていただきました。これら活動の手本になりました
のは愛知、岐阜、三重それに長野県の先生方による
合同の総会(新三水会)であり、今年の名古屋での
開催には本部役員も参加させていただきました。
いずれも多くの会員諸先生にお集まりいただき大変
有意義な会がありました。来年には同様に九州地区



の先生方にお集まりいただきべく準備を進めて参り
ます。

本法人定款では、役員(理事・監事)および会員(一
般社団法人での社員)の役割が明確に記されおり、
評議員会についても卒業各期、地区選出の先生方により
運営していただき、理事会の諮問機関としての役割も担っていただております。

今後は本部役員の構成や役割分掌のさらなる明確化、また役員の任期制や本学・医学部学生の仁泉会への入会(准会員として)などについても議論を深めて参ります。

ご多忙を極める会員諸先生の時間と会合経費節約を前提として、テレビやパソコン(スカイプなど)を用いた会議の設定なども実現に向けて取り組んで参ります。

これら山積する課題につきまして、会員諸先生方の忌憚ないご意見、ご提言を賜れば幸いです。
今後とも仁泉会へのご支援を賜りますようお願い申
し上げます。

末筆になりましたが会員諸先生方の益々のご活躍
とご健康を祈念申し上げます。

仁泉会新役員

理事長	河野公一	学 21
理事	内田 實	学 12
理事	加藤一博	学 12
理事	佐藤公彦	学 12
理事	加藤鈴幸	学 14
理事	北浦 泰	学 14
理事	飯田 稔	学 18
理事	安藤嗣彦	学 20
理事	大藪 博	学 22
理事	大森英夫	学 25
理事	上野 豊	学 27
理事	小野誠治	学 28
理事	酒谷 薫	学 30
理事	米田 豊	学 30
理事	内山和久	学 32
理事	上田晃一	学 33
理事	御前 治	学 33
理事	上杉康夫	学 34
理事	中野隆史	学 38
監事	日下孝明	学 16
監事	森本博子	学 24
監事	大西洋一郎	学 25

学長退任のご挨拶

学部23期生 竹中洋

平成 21 年 6 月 1 日から平成 27 年 5 月 31 日まで 2 期 6 年間第 9 代大阪医科大学学長を務めました。就任時、本学では関西大学並びに大阪薬科大学との所謂 3 大学連携学部の問題や、健康科学クリニック創設が本学法人理事会を中心に提案され、大学の中で熱心に討議されていました。このような時代背景を下に「情報公開」を大きな課題として当時の学長予定者選考規程により選出された経緯があります。

本学が学校教育法と私立学校法に基づき運営されるのは自明の理であります、前者は大学の教學について定められたものであり、後者は学校法人運営の根拠となる法律です。学内では基準が明確にされる必要がありますが、法的に上下関係はありません。就任当時、学長の権限は、「学長は校務を司り教職員を統督する」と学校教育法に明示されていましたが、学内規程には反映されていませんでした。平成 23 年 6 月の植木實理事長就任時に、何回もの意見交換を重ね、新しい学校運営についての基本方針が公開されました。前後しますがその精神に則した大学運営について述べます。

・医学部教授会運営

- 議事録の学内公示
- 教授会選考の候補者選出プレゼンテーションの教員参加
- 医学研究科教授会の開催
- 大講座教授会の権限の制定
- 学位審査の公開制と透明性の担保：審査の公開制
- 教育機構の教育総括会議への再編：PDCA cycle の担保
- 研究機構の見直し：研究支援センター構想
- 専門教授の増員：附属病院診療科体制の強化

・看護学部

- 看護学部教授会運営の立ち上げ時の調整
- 全学協議会の創設（医学部との共有意識の涵養）：調整機関
- 看護学研究科申請：前期後期課程の同時認可
- 医看融合教育の実施（医学部にも共通）：将来課題
- 予防医学研究センターの制定：健康科学クリニック

クでの研究

・社会活動

- 中山国際医学医療交流センター事業の拡大：提携大学の増加
- 大学内知的財産の社会的公開：特許申請や電子版教科書作成

・寄付講座の誘致：定数化で増えない教員層の充実

- 兵庫県並びに高知県からの寄付による地域医療総合科学講座の創設：専任 2 名と 8 名の助教准（大學生）の選任
- 地域医療に貢献する総合診療医の育成

・競争的外部資金の拡充

- 文部科学省科学研究費以外の資金獲得（平成 26 年度 2.5 億円）
- 研究シーズ集「夢の架け橋」の創刊
- 看護学部教員の積極的参加：outcome の見えた医療機器の開発

以上、幾つかの項目に限って述べました。これ以外には平成 25 年 3 月に大学基準協会の評価を得られました。また、平成 26 年の学校教育法の改定にあたって理事長の意向を受け、学内規程類の改訂作業を行い、先に述べた学長の権限を学則に追記できた事があります。

看護学部教員の力量は近畿一円で一際群を抜いています。医学部教員の東日本大震災で示した医療への情熱に大きな展開力が潜んでいます。また、シリーズに留まらずニーズを実現していく臨床研究力も誇れるものです。基礎医学の充実も大きな可能性を感じさせます。これらの事業推進にご協力頂いた教員・職員のご尽力に心より感謝申し上げます。ご支援を賜った仁泉会会員に御礼申し上げます。本学に学ぶ両学部学生諸君の将来性に大きな期待を寄せます。



平成 27 年度 仁泉会総会 開催報告

去る 5 月 31 日（日）ホテルグランヴィア大阪にて定期総会及び評議員会が開催されました。当日出席者 65 名で、午後 4 時 30 分より河野公一理事長が議長となり評議員会が開催され、午後 4 時 50 分より定期総会が開催されました。総会議長は学 25 期の宮越一穂先生が選出され、平成 26 年度の事業報告、決算案、役員改選の議案が原案通り可決承認されました。総会終了後の懇親会では新理事長に再任された河野公一理事長の挨拶で開会され、和気藹々の歓談の中、校歌を齊唱し盛会裏に終了致しました。次回は平成 28 年 5 月に京都にて開催予定です。

以下当日のご挨拶要旨を掲載させていただきます。

仁泉会理事長総会挨拶

大阪医科大学 仁泉会 理事長 河野公一

学部 21 期の河野でございます。先生方におかれましてはご多忙の中、休日にもかかわらず多数お集まりいただき誠にありがとうございます。

さて、先生方もご存じの通り、仁泉会は 2 年前に新定款の元、新たに再出発した訳でございますが、私は丁度、大学教員を退職した時でございました。ご支援を頂き仁泉会の理事長をさせて顶くことになった訳でございますが、この 2 年間の任期で私に与えられた使命は、1 つは母校と先生方の橋渡しをする事であったろうと考えております。この後、植木理事長、竹中学長にお話しいただけると思いますが、母校は 90 周年、100 周年に向け大きく変わろうとしております。その変化を皆様に出来る限りお届け出来たと考えております。今後も仁泉会ニュース等を通じ先生方へ母校の情報を届けする予定でございます。

もう 1 点は支部の活性化でございます。公益事業として学会助成や奨学金の貸与を行い、本部事業として母校への援助や、学生への支援事業も行って参りましたが、特に、支部の活性化をお願いしたいと、関東地方、四国地方での会員交流の機会を設けさせて頂きました。先生方のお許しがあれば、今後は九州、中国、北陸と広げて行きたいと考えております。



また、既にニュースでご報告させて頂きましたが、昨年の 8 月に台北医学大学との同窓会の会長が私と同期の縁もあり、仁泉会初の海外交流として情報交換を主目的とした交流協定を結ばさせて頂きました。その成果として母校と合併を致しました高槻高等学校の学生が台北医学大学へ海外実習に行った際に、連絡を取らせて頂き、微力ながらお手伝いが出来たかなと考えております。

本日の総会では、役員改選等の重要議案もございます。議事進行のご協力のお願いを致しまして挨拶とさせて頂きます。本日は本当にありがとうございました。

大学理事長総会挨拶

学校法人大阪医科大学 理事長 植木 實

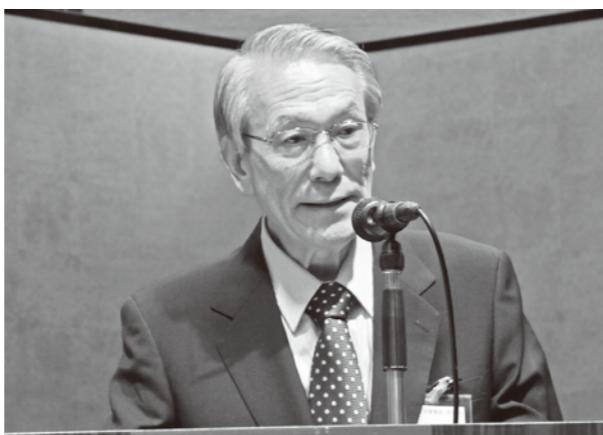
皆さん、こんにちは。植木です。

今日は仁泉会総会にお招きいただきありがとうございます。多くの方々がご参集され、うれしく存じます。日頃は本学のために何かとご尽力を賜り、感謝申し上げます。

今日は、本学法人の事業の推進状況等について簡単にご説明し、最近発刊しましたサステナビリティ活動冊子をご紹介申しまして、ご挨拶に代えたいと思います。

お手元にお配りしている資料の【図 1】にありますように、今、私が教職員にお願いしていることは、大学力(学校力)の強化であり、これには何と言つても人材の育成であります。数年前から、機会あるごとに教職員に対し申し上げている S S D [Staff (Student) Self-Development] は、自分で資料を探し、自ら勉強し、考え、行動することによって自分の能力を向上させる、即ち自己啓発であります。従来の S D や F D は教えられることが多いのですが、なかなかそれだけでは自分のものになりません。ぜひ、自らが学び実践する、自己啓発を実践していただきたいとお願いしています。その際に、大学という組織に勤める人間としてコンプライアンスがあるのは当然のこととして、さらに積極性を持つディシプリンやインテグリティを備える、即ち、自律性やさらに誠実性、公平性を持つことが大切であります。これは自分で学習する中で身に付くことであり、このような方が組織の中に 1 人でも 2 人でも増えることで組織は大きく成長致します。その意味で、教職員の方には知識や技術的能力、そして人間性の向上を常に図っていただきたいと思っています。

【図 2】ですが、大学の現状に少し触れておきます。平成 26 年度は、4 月に高槻中学校・高等学校との法人合併を無事果たし、現在、順調に様々な領域で融和するための作業が続いています。同時に、看護学



植木 實 理事長

部の大学院を開設致しました。今、近隣に多くの看護学部ができていますが、大学院修士・博士課程を同時に設置している所はほとんどなく、本学が先行した形です。老朽化していた保育所も新築・完成しました。教職員の福利厚生に役立てばと思います。8 月には、かねてから計画の中央手術棟が着工しました。今、5 階部分がほぼ出来上がり、順調に工事が進んでおり、12 月完工、来年 3 月オープン予定です。また、12 月には従来の医療の病院完結型から地域・在宅完結型への移行を目指し、大学病院、特定機能病院では珍しいのですが訪問看護ステーションを設置し、第 2 病院のそれと併せて機能性を高めたいと思っています。法人の財政は、平成 26 年度も改善してさらに安定化しておりますが、現在進行している多くの事業の遂行には、今後も財政の安定は必須事項であります。

【図 3】は、近未来に向けた将来展望として今後進めていく事業の一覧です。本学法人は、平成 29 年に迎える創立 90 周年の記念事業の一環として、中央手術棟の建築が進められております。それに先立ち、長年の夢でありました第 2 病院(分院)設置構想は、高槻市南部にある新生病院を譲受する形で実現し、この 7 月から大阪医科大学三島南病院としてスタートする予定です。かねてから進めている大阪薬科大学との法人合併は、3 月 19 日に合併契約書に調印し、来年 4 月 1 日の法人合併に向けて順調に協議を進めています。法人合併されれば、「学校法人大阪医科大学」に改名され、中等教育校を有する、医学・薬学・看護学とそれぞれの大学院を持つ

【図 1】 大阪医科大学の一員として



図 1

【図 2】 平成 26 年度 本学法人の事業推進状況



法人の財政の安定

~ 平成 26 年度帰属収支差額改善 ~

図 2

【図3】近未来に向けた将来展望



図3

医療系総合大学・学園となります。昨年4月1日に法人合併した高槻中学校・高等学校は、男女共同参画社会実現への寄与と教学強化を図るため、平成29年度から男女共学となります。そのための新校舎建設を含むキャンパス整備にも着手します。

創立100周年に向けては、本部キャンパス内の全病院建替え事業を推し進め、完成時にはこれまでの大学の景観が一変するほどの変貌を遂げると思います。また、国家戦略特区プロジェクトの1つであるBNCT医療施設も、誘致が決定し、数年先の実現に向け、大阪府や医療関係者を交えた有識者会議で協議を進めています。

次に、同じく本日配付しました「サステナビリティ活動冊子」について簡単にご説明申し上げます。この冊子は、この度初めて本学法人の社会・地域への貢献と還元に関する活動を一つにまとめたもので、ISO26000のガイドラインに沿って作成し、つい先

日発刊しました。

サステナビリティは、皆様には耳新しい言葉かと思います。これは、どの組織、特に大きな企業や本学法人のような学校法人が、永続的な発展を求め、社会に対しどのような役割を果たし、また、公共性を担保しているかを自ら知り、仁泉会の先生方や、保護者会の皆様、教職員、患者様、地域の住民、行政の方々など、本学法人を支え、直接あるいは間接的に利害関係のあるステークホルダーの皆様に十分理解され、周知を図ることにあります。これにより、まず働く教職員、学ぶ学生には、これらを知ることにより働く意義や学びの意欲・モチベーションを上げることにつながると思います。また、仁泉会の先生方や学生保護者、患者様や行政の方々、取引業者等、ステークホルダーの皆様に広く本学法人の社会に果たしている役割や公共性を周知することは、今後の本学法人を支える

【図4】サステナビリティ活動冊子



『サステナビリティ活動冊子』
(2015年5月初版)

図4

大きな原動力となります。これらの情報を共有することで、本学法人が社会の公器としての存在意義をご理解いただくとともに、ご支援を賜りたいと考えております。

本学法人は、開学以来ともいえる大事業が同時進行しており、それらを成功させることで単科医科大学から脱皮し、真の医療系総合大学・学園へ発展する刻であります。その意味で、今年のスローガンは「飛躍へのTake offの刻」と定めました。教職員一同、SSDを常に実行し、本学法人の一員として「インテグリティ」を身に付けていく努力を続け、本学法人のさらなる発展のため、邁進してまいります。仁泉会の皆様におかれましては、今後とも本学法人へのご協力、ご指導を賜りますようお願い申し上げまして、ご挨拶と致します。ありがとうございました。



学長総会挨拶

大阪医科大学 学長 竹中 洋

竹中でございます。後 6 時間少しで学長の任期が終わります。身に余る重責を降ろさせて頂くことになりました。本日はこの 1 年間のお話を少しあせて頂きたいと存じます。

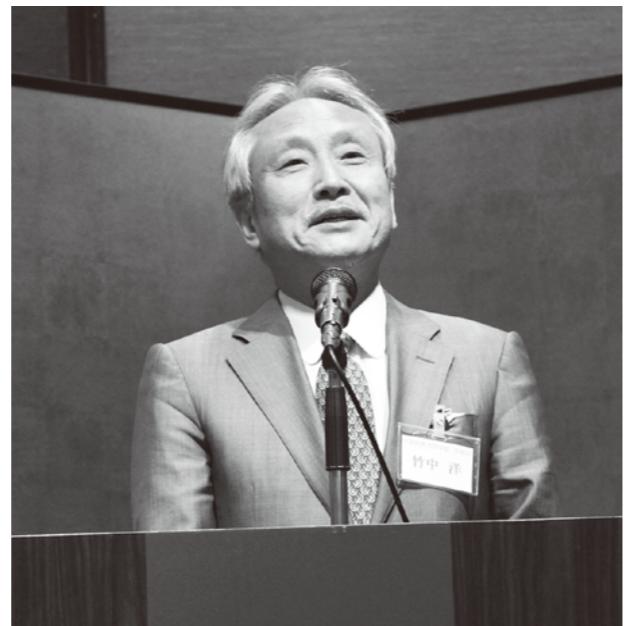
新学長が決まったということで、将来の教学については新学長が今後お話をされると思います。法人については、植木理事長がお話になられましたが、大阪医科大学の教學の中で進んだことが 3 つございました。

1 つは国家試験対策を教育センターという正式のセンターで預かることになりました。関西の 4 つの私学の中ではそれほど力が入っていなかったという所でございますが、今後センター中心に力を入れる事になりました。今年は 107 名が卒業し 101 名が合格しました。94.5% という合格率でございました。全国平均でございます。私学の中では少し良いといった所です。既卒者につきましては、仁泉会からもご援助を頂いておりますが、18 名受験し 14 名が合格しました。これは 10 名以上残している学校の中では一番良い合格率であります。4 名のうちお 1 人は卒後 40 年、17 年目の方もいらっしゃいます。

今後も卒業判定、各学年判定を学則通り実行することを原則として、今回 30 名留年者が出来ました。大学理事会でも多いのではないかとお叱りを受けましたが、全国平均では 110 名入学してストレートで卒業できるのは 85% でございます。入学してから 1 年生、2 年生で勉強の仕方をしっかり身に着けなかった学生はそこで留年をします。今回 1 年生は 12 名留年者が出ております。

もう 1 つは、兵庫県の寄付講座、地域総合医療学科を設けました。教授としてお迎えしましたのは、名古屋大学卒業の鈴木富雄先生、先生方は声や姿は NHK のドクター G という番組でご存じかもしれません。彼が赴任してくれました。今年の春はレジデントが 6 名その教室を選んでおります。

兵庫県の神崎総合病院、宍粟総合病院、赤穂市民病院へ各々 1 名、大学院生が週に 1.5 日お手伝いにいっております。



竹中 洋学長

それから同じシステムで高知県プロジェクトも今年の 2 月から動きだしております。高知県の仁泉会の先生に大変ご尽力を頂きました。常時、嶺北中央病院に第一内科と第二内科から 2 人の大学院生、卒後 3 年目と 4 年目でございますが赴任をしております。その効果として教員が全体で内科を中心に 8 名から 9 名増えております。定員等々が何かと厳しい折、寄付講座を使い特任教授を含め全体で 10 名成立しております。高知は日帰りできませんので年の内 4 か月間は高知で働き、残りの 8 か月は大阪医大で働いております。

もう 1 つは産官学の連携事業がございます。大阪医科大学でここ 5 年間で立ち上げてきた事業でございます。主として医工連携を行っております。お耳に入っているかもしれませんが、課題解決型の医療機器の開発というものは、従来ですと文部科学省と厚生労働省からしかお金が出ておりませんでしたが、最近は違う省から出てくるようになりました。特に我々のところは経済産業省から多く出てきております。この 10 月には第一外科で腹腔鏡手術に使う、お腹にいくつも穴をあけるのではなくて、お臍のところを一か所切ってやるというデバイスが東レから発売される所まで来ております、開発から丸 4 年かかっております。3 年間で 2 億 4 千万。その後に看護師が使う、動脈や静脈を見分ける超音波装置、今、2 年半で 1 億 5,6 千万円頂いております。その後に胸部外科の人工被膜、パッチが帝人が参画し研究をしております。経産省関係では、大阪では圧倒的に

大阪医科大学の 1 人勝ちという状況が続いております。

いずれ、これらの研究の成果が特許料等の形で法人に入る訳ですが、是非、研究費の下支えに使って頂きたいと、昨日の理事会で最後のお願いをして参りました。

教学の方は看護学部の頑張りがございますが、この 6 年間で学生は各学年 110 名に増やしております。その間の教員の補充はほとんどありません。それと教育体系も少しずつ変わっており、小さな教室が必要になってきております。今般、大学の中で法人の構想である病棟工事が入ってきますと、臨床第一講堂、第二講堂は無くなります。教学への目配りを、大変失礼な言い方を致しましたがお願いを申し上げます。

最後に、本当に 6 年間お世話になりました。私自身あまりこまめに動く人間ではありませんので、色々とご批判やご意見があったと思います。特に仁泉会の中では、元理事長の植原敬郎先生に大変ご指導を受けました。最後には植原先生も諦められたのかもしれません、「君 1 人ぐらい皆と違う意見を言う人がいた方が良いかもしれない」と亡くなれる 1 週間程前に仰っていただきました。私は私なりに自らの考えとコンセプトに従って、特に気を付けるということはありませんでしたが万事「私に利する事なれ」と思い学長を務めて参りました。

これから大阪医大、大変革の年でございますので、先生方の教学への温かいご指導ご支援をお願い申し上げましてご挨拶とさせて頂きます。本日はありがとうございました。

平成 26 年度 事業報告書

1. 学術研究振興研究援助事業

全国規模的学会に対し、平成 26 年度には 9 学会に助成を行い、機関紙仁泉会ニュースにて報告を行った。

2. 奨学金貸与事業

平成 26 年度に採用された奨学生は 7 名であり、各々年額 60 万円の奨学金を貸与した。貸与総額は 50,333,000 円である。

3. 本部諸事業に関する事項

1) 大阪医科大学への後援事業

①母校 90 周年募金事業活動として、パンフレッ

トを全会員に向け発送した。

- ②平成 26 年度卒業生の鈴木重徳君に対して仁泉会理事長賞を授与した。
- ③母校の西医体活動に援助を行った。
- ④母校の学園祭に援助を行った。
- ⑤母校の活動報告として、学報及び OMC ニュースを年 4 回全会員に向け発送した。

2) 会員の福利厚生への事業

- ①会員の動向把握を行い、物故会員 70 名に対して供花料及び弔電を送った。
- ②会員相互の親睦交流を深める為に、平成 26 年度中に企画されたクラス会の開催について案内状発送事務の支援を行った。
- ③平成 26 年度の長寿会員に対して傘寿祝の記念品を贈呈した。
- ④福知山の豪雨災害で被災した会員 2 名に対しお見舞いを行った。

3) 仁泉会組織強化に関する事業

- ①四国在住の会員を対象に、四国地区懇談会を開催し、四国地区での支部活動の活性化を行った。
- ②支部会開催にあたり、案内発送等の事務支援を行った。
- ③本部支部間の連絡に関する事項
本部支部間の連絡並びに学内の状況説明のため 19 回各支部へ役員を派遣した。
- ④台北医学大学同窓会との交流会を開催し、交流協定を締結した。

4) 全国私立医科大学同窓会連絡会との連携事業

- ①第 24 回全国私立医科大学同窓会連絡会「西部会」に出席し、同窓会が抱える問題と解決法について協議を行った。
- ②第 25 回全国私立医科大学同窓会連絡会「全国会」に出席し、出席各校と情報交換を行った。

5) 広報事業

- ①機関紙「仁泉会ニュース」を年 9 回発行した。
- ②フェイスブック及びホームページにて、各種案内及び母校の情報提供を行った。

6) 会員に関する事項

- ①新入会員に関する事項
平成 27 年 3 月の母校卒業生は 108 名で、全員の入会があったので平成 26 年度入会者は

108名である。

②会員数に関する事項

平成 27 年 3 月末日現在の会員数は 5,448 名である。

③物故会員に関する事項

平成 26 年度に届出のあった物故会員は 70 名である。

④会費免除者に関する事項

平成 26 年度より会費免除となった会員は 49 名で平成 27 年 3 月末日現在の長寿会員（免除会員）数は 658 名である。

7) 役員及び会議に関する事項

①理事会役員に関する事項

平成 27 年 3 月末日現在の役員は次の通りである。

理事長 1 名、副理事長 2 名、常任理事 6 名、理事 9 名、監事 3 名、参与 6 名 合計 27 名

②会議に関する事項

平成 26 年度に開催した会議及び役員が出席した会議は次の通りである。

- (1) 総会 1 回、評議員会 1 回、理事会 7 回、監事會 1 回。
- (2) 第 25 回全国私立医科大学同窓会連絡会 全国会及び第 24 回全国私立医科大学同窓会連絡会西部会に仁泉会役員が出席し 同窓会活動について協議を行った。



(3) 支部総会 19 回、大阪泉州地区会 1 回に出席した。

以上



平成 26 年度収支決算書総括表

自平成 26 年 4 月 1 日～至平成 27 年 3 月 31 日決算 (単位 円)

科目	合計	一般会計	基金特別会計
I 収入の部			
基金収入	663,766		663,766
入会金収入	960,000	960,000	0
会費収入	22,980,000	22,980,000	0
寄付金収入	563,412	563,412	0
雑収入	1,934,998	1,931,618	3,380
奨学金返還金	8,014,000	0	8,014,000
繰入金収入	2,000,000	2,000,000	0
当期収入合計 (A)	37,116,176	28,435,030	8,681,146
前期繰越収支差額額	19,902,787	8,004,290	11,898,497
収入合計 (B)	57,018,963	36,439,320	20,579,643
II 支出の部			
事業費	14,977,554	10,777,554	4,200,000
管理費	14,730,491	14,618,174	112,317
特定預金支出	809	809	0
繰出金支出	2,800,000	800,000	2,000,000
当期支出合計 (C)	32,508,854	26,196,537	6,312,317
当期収支差額 (A) - (C)	4,607,322	2,238,493	2,368,829
次期繰越収支差額 (B) - (C)	24,510,109	10,242,783	14,267,326





祝・入学

平成 27 年度 大阪医科大学入学宣誓式

平成 27 年度の入学宣誓式は、平成 27 年 4 月 3 日(金)午後 2 時より高槻現代劇場大ホールにて、

医学部医学科 111 名、看護学部看護学科 89 名で行われました。

まず竹中 洋学長より式辞が述べられ、続いて来賓祝辞を河野公一仁泉会理事長が述べされました。

当日の挨拶などを以下に記させていただきます。

学長告辞

大阪医科大学学長 竹中 洋

桜が満開のこの日、医学部 111 名、看護学部 89 名の新入生の皆さんご入学おめでとうございます。また、ご父兄の皆様にも心よりお慶びを申し上げます。関西医科大学学長友田先生はじめ御列席頂いております多くのご来賓の皆様にも厚く御礼申し上げます。

医学部入学生の皆さんはこれから 6 年間医学の勉学に勤しむことになります。医学教育は生命科学の進歩とともに凄まじい質の高まりと量の増加を見せています。従って、お祝いの言葉とともに、大変険しい道を選ばれたことを忠告しておきます。本学は、皆さん方が学ばなければならないことは、自ら学んで行く学習態度と考え、自学自習の精神の涵養に務めてきました。残念ながら昨今、大学での授業や実習を軽んじ、医師になる本道を見失う諸君が増えてきています。我々教員も真摯に対策を立てています。入学生の皆さんには学則を厳守し、履修態度に注意し、欠席することなく勉学に励んで頂くことを強く希望致します。特に単位履修に際しては、医学部は全てが必修科目です。可能な限り本試験で、余裕を持って合格して下さい。

看護学部の入学生の皆さん、大阪医科大学看護学部は第 2 期生が卒業致しました。また、卒業生全員が看護師国家試験に合格し、希望者全員が保健師と

助産師の国家試験に合格しています。看護学は、医療の世界では新しい分野です。しかし、未曾有の少子超高齢社会で、病院ではなく地域で完結する包括的ケアにおいて、看護の重要性は更に大きくなると期待をされています。また、看護師の医行為についても大きく門戸が開かれ、名実共に看護師の機能と地位が向上すると予想されます。教員の皆さんのご指導のもと在校生と親しみ、大阪医科大学に新しい看護学の伝統を築いて頂きたいと思います。

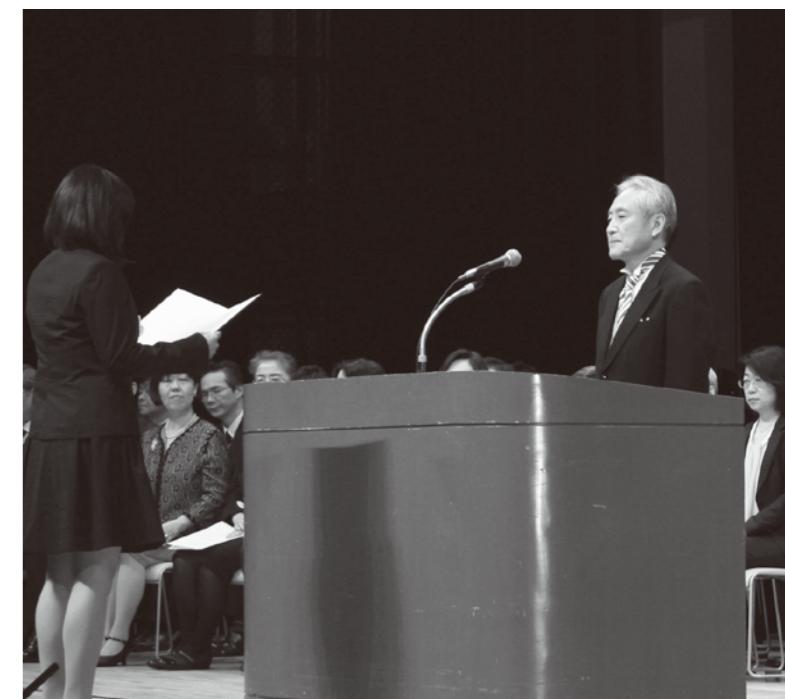
大阪医科大学は昭和の大恐慌の最中昭和 2 年に、5 年制の高等医学専門学校として誕生した、西日本でも最も古い私立大学医学部あります。当時、多くの国民が、外国に職と生活の糧を求めて移住しました。在留邦人に我が国の医療を提供することが建学時の目的の 1 つであったと伝えられています。

近年、我が国では新しい国力推進分野として医療が取り上げられ、海外で医療を実践する力や日本の医療を展開する力は、「国際化」や「海外交流」として、医科系大学の大きな責務と考えられています。入学生の皆さんには、「中山国際医学医療交流センター」を通して海外の大学と交流し見聞を広げて頂きたいと思います。都市型医療系複合大学として、本学はチーム医療の原点をしっかりと見定めた教育・研究活動を目指しています。皆さんのが「医看融合教育」

でお互いの守備範囲を相互確認することは、将来にとって大変有意義と考えています。

最後に入学式に際して皆さんに学長としてお願いがあります。両学部とも厳しい競争に打ち勝つ入学です。しかし、皆さんの今日からの目的は、将来、医師として看護師として日本の未来を支えて行くことに変わります。入学に慢心せず、勉学に励んで下さい。高度な技能を持つ医療人を育成する本学の教育目的を理解し、日々の努力を重ねて頂きたいと思います。皆さんのが進まれる道には、予備校や塾はありません。強い意志をもって 6 年間或は 4 年間を有効に過ごして下さい。また、医療職は人間性の魅力に裏付けられた職種もあります。友を作り、クラブ活動を通して体力を向上させ、人格を陶冶し、多くの好ましい人生経験を重ねて頂きたいと思います。

之をもって平成 27 年度大阪医科大学入学生への学長式辞と致します。



竹中 洋学長

祝辞

**一般社団法人大阪医科大学
仁泉会理事長
大阪医科大学名誉教授 河野公一**

新入生諸君、ご入学誠におめでとうございます。また本日ご出席されています、ご両親をはじめご家族の皆様には感慨ひとしおのことと存じます。心からお慶び申し上げます。

私はただいまご紹介いただきました、大阪医科大学仁泉会理事長の河野です。この良き日に本学同窓会を代表して一言お祝い申し上げます。

大阪医科大学は昭和 2 年(1927 年)本邦初の 5 年制医学専門学校として開学以来、医学部卒業生は 9,151 名を数えます。

今年 3 月には、医学部 64 期生、看護学部 2 期生がめでたく卒業されました。現在、日本全国、世界各地で諸君の先輩が活躍中です。

本日、医学部 70 期生、看護学部 6 期生のみなさんを迎えることとなり誠におめでたく喜ばしいことと存じます。

さて、新入生諸君はここで息を抜かずに勉学は続けてください。皆さんのがこれから大阪医科大学で学

ぶ医学・看護学の領域は日々目覚ましい進歩を遂げています。短期間の詰め込み学習で習得できるようなものではありません。授業に出席するだけでなく、自学自習を通じて毎日の研鑽の積み重ねが大切です。また学生研究員となって教室に出入りすることも視野を広げることにつながるでしょう。

私も本学の教授時代に多くの学生諸君と接し、彼らの日々成長してゆく姿に眼を見張る思いでした。また、医学・医療・看護の世界の先人の書物に眼を通し、彼らの生き方を学ぶことも大切です。私の尊敬する恩師の一人ロンドン大学産業医学研究所のリチャード・シリング教授の言葉「職業病はすべて環境要因のなせる業であり、ゆえに予防に勝る治療はない」が私のその後の人生を決定つけたといつても過言ではありません。また「白衣の天使」ことフレーレンス・ナイチンゲールは同じくロンドン大学セント・トマス病院に 1860 年、世界に先駆けて「人道・博愛・生の尊厳」を掲げて看護師養成校を創設しま

したが、第 1 期生はわずかに 15 名でした。私は英語留学当時、彼女の後輩たちと語り合い、その生き方に大変感銘を受けたものです。

次に打ち込める趣味を身に着けてください。その一つがクラブに入り活動することです。本学には数多くの運動クラブや文化クラブがあります。いずれかに入り、多くの先輩、後輩を作ってください。本学学生として視野を広く持つことが出来るだけでなく、諸君の同級生同士の横の連携以上に、クラブの先輩、後輩のつながりは将来にわたって大きな支えとなるでしょう。私自身もクラブ活動で汗を流し、大切な先輩や友、また生涯の伴侶を得ることが出来

ました。

保護者の皆様、クラブに入ったら勉強がおろそかになるのではとご心配されておられるのではないでしょうか。そんなことは絶対にありません。ご子弟がクラブ活動をしたといいわれたら、快く許してあげてください。

新入生諸君は今日から、大阪医科大学学生としての生活が始まります。前途は洋々と広がっています。悔いのない学生生活を送り人に信頼される立派な医師・看護師となられることを期待しつつお祝いの言葉とさせていただきます。



河野公一理事長ご挨拶風景

クラス会開催にあたって

クラス会開催にあたり、ご案内発送や出欠の集計等を仁泉会事務局にてお手伝いさせていただきます。
お気軽にご相談ください。

仁泉会事務局

TEL / 072-682-6166

FAX / 072-682-6636

e-mail / jimu@jinsenkai.net

気になるあの場所・あの人 編集部がジャストミート！

大阪医科大学訪問看護ステーション完成 林 佳美管理者に聞きました

今春、仁泉会事務局のすぐ隣、母校保育所の跡地に新たに開設された「大阪医科大学訪問看護ステーション」。大学が訪問看護を何故必要と考えられたのか、訪問看護が担う将来の医療についてお伺いをさせて頂きました。管理者の林 佳美先生をはじめスタッフの皆様の明るい笑顔で迎えて頂きました。

— 今回大阪医科大学内に訪問看護ステーションを設立された大きな目的と今後の目標についてお教えてください。

林 法人の附属病院は、特定機能病院として高度医療を提供することが求められています。しかしもう一方で、三島二次医療圏には公的医療機関がなく、地域の中核機能病院としての機能も求められています。今、高槻市は高齢化率が 26% になっていて、2025 年には 35% を上回る状況になってくると言われています。その中で大阪医科大学としては高度医療をしていたらそれでいいということではなくて、この地域に貢献していく必要があると思うんです。つまり患者様に対して病院で医療を完結させるのではなくて、地域で完結させる必要性があるということです。どういうことかと言いますと、病気を抱えながらでも住みなれた自宅や地域で生活ができる在宅医療を推進し、在宅医療をすることができる「人」を育てるということです。私たちの法人は教育機関でもありますので、地域を支えていくための医療提供体制の構築を推進していくために、法人として訪問看護ステーションの設立が決定されたわけです。

— 民間が運営する訪問看護ステーションとの違いはなんでしょうか？

林 高槻市内だけでも現在 30 以上の事業所はあるんです。ではその中に今、なぜ大阪医科大学が参入することになったかというと、これからもっともっと医療依存度が高い人が増え、在院日数がさらに短く

なります。人工呼吸や在宅酸素の管理・ストーマケアなど医療的な処置を自宅で継続する必要がある方も多くなるんですね。となると、訪問看護の質の高さが問われますのでそこに対応しないといけないです。悪性腫瘍、難病、小児、精神科疾患の方がたくさんいらっしゃるので、私たちが連携することで安心してご自宅に帰っていただけるような仕組みを作ろうということです。そしてもう一つは、先ほども申し上げたように教育機関として訪問看護の質の向上ですね。大学があり、看護学部があり、附属病院専門看護師もいるので、その強みを生かすことができればいいと思います。

— 教育という観点は確かに強みになりますね。

林 看護学部に「在宅看護学」という講義があるのですが、私たちの訪問看護ステーションで来年度から在宅看護学実習をお受けしようと考えています。在宅では、自分自身でその場で判断することが必要になるので、しっかりと基礎的な知識・技術を身につけてもらう必要があります。これから社会ニーズには不可欠なことですから、在宅医療に精通する人材を育成していかないと。もちろん病院看護部では、病院内における看護のプロフェッショナルは育てているのですが、在宅看護となると若い看護師には想像がつきづらいんですね。核家族化が進む中で、在宅看護が必要な生活というのがイメージできないんです。でも、そのことを見据えた看護を病院内でしていかないといけない。この患者様は家に帰ったらどういう生活が待っているのかとか、家族構成は

こうだから支援体制をどう整えるのかなど入院から見据えないといけないのです。そこまで考えないと患者様を支えることができないと思います。そこを学んでいただくために私たちと同行してもらって退院後の生活を見据えた看護を急性期の現場から行えるようにしていきたいですね。看護に必要なことは、単に症状を見るということではなく、その方を全人的にみることが大切です。入院というのは、その患者様にとっての一通過点に過ぎないですから。そして身につけたノウハウを患者様や地域に提供していくことが、私たち看護師の責務だと思います。

- 今後の看護の在り方はどうなっていくのでしょうか？

林 病院で亡くなる方が 80% くらいで、家で看取られて亡くなる方がすごく減っているんですけど、ただこの状況はこれから変わっていきます。病院で亡くなる方が増えていくとベッドが足りなくなるんですね。看取りをするための入院を増やしくと、本当に必要な急性期医療ができなくなってしまう恐れがあります。ですから、在宅で看取るということになっていくんです。これは国が定めた政策でもあります。そしてこれは国が一斉にやりましょうと言っても無理な話で、結局は地域で取り組むしかない。とりあえず「地域でどうしていくか」というのがすごく課題なんです。私たち看護師だけでもダメです。医師だけでもダメですし、行政だけでもできないと思います。住民の方も含めて、みんなで地域医療のことを考えないといけないんです。これを今やっておかないと 2025 年問題と言われている時代に対応できないですね。ですから私たちの使命は、地

域医療のシステム作りに関わり、教育を推進していくということです。そのためにはこのステーションの訪問看護師をもっと増やして、さらに 24 時間 365 日対応などの大規模化・多機能化を図らなければいけないと思います。これからやっていくことは山積みですが、利用者様のため、地域のために、全力でがんばっていきたいですね。

- そもそも先生が管理者になられたきっかけは何だったのでしょうか？

林 卒後に脳神経外科の病棟に勤務し、患者様の在宅医療に向けての支援を経験して在宅医療に興味を持ちました。一度大学を離れ、訪問看護やデイケアの開設など在宅分野を経験して、附属病院に復帰して 15 年になります。この度法人が訪問看護ステーション開設の事業計画を伺い、自ら立候補いたしました。

植木理事長からは、これからの地域医療には必要不可欠のものになるので存分に励んで欲しいとお言葉を頂きました。

- 最後に仁泉会の先生方へメッセージなどあれば

林 訪問看護は先生方からの要請やご指示がなければ成り立ちません。いつも大変暖かく応援を頂き感謝しています。出来たばかりの組織ですので、これからも引き続きご支援ご指導をお願い致します。



訪問看護ステーション入り口の前にある社用車



林 佳美先生

大阪医科大学訪問看護ステーション 管理者 林 佳美先生 プロフィール

平成 5 年	大阪医科大学附属看護専門学校を卒業
同年	大阪医科大学附属病院に入職、 脳神経外科病棟勤務
	意識障害患者の看護に携わり、 自宅への退院支援を行い地域看護への関心を持つ
平成 7 年	大阪医科大学附属病院を退職し約 2 年、 大阪市内の病院に勤務し、訪問看護の実践や デイケア開設などに携わる
平成 13 年	大阪医科大学附属病院に再入職、 脳神経外科病棟へ復帰
平成 14 年	臨床指導者
平成 15 年	主任看護師
平成 17 年	看護師長代理、脳神経外科病棟責任者
平成 21 年	看護師長
平成 22 年	腎泌尿器科病棟責任者
平成 23 年	病院医療情報部兼務 電子カルテ導入に携わる
平成 26 年	大阪医科大学訪問看護ステーション 管理師長
平成 27 年	看護副部長 大阪医科大学看護学部臨地教育准教授

大阪医科大学 訪問看護ステーション

Tel. 072-684-6776 Fax. 072-684-6792



スタッフの皆様

学会報告

第 25 回日本頭頸部外科学会を開催しました

文責／寺田哲也（学 41 期）

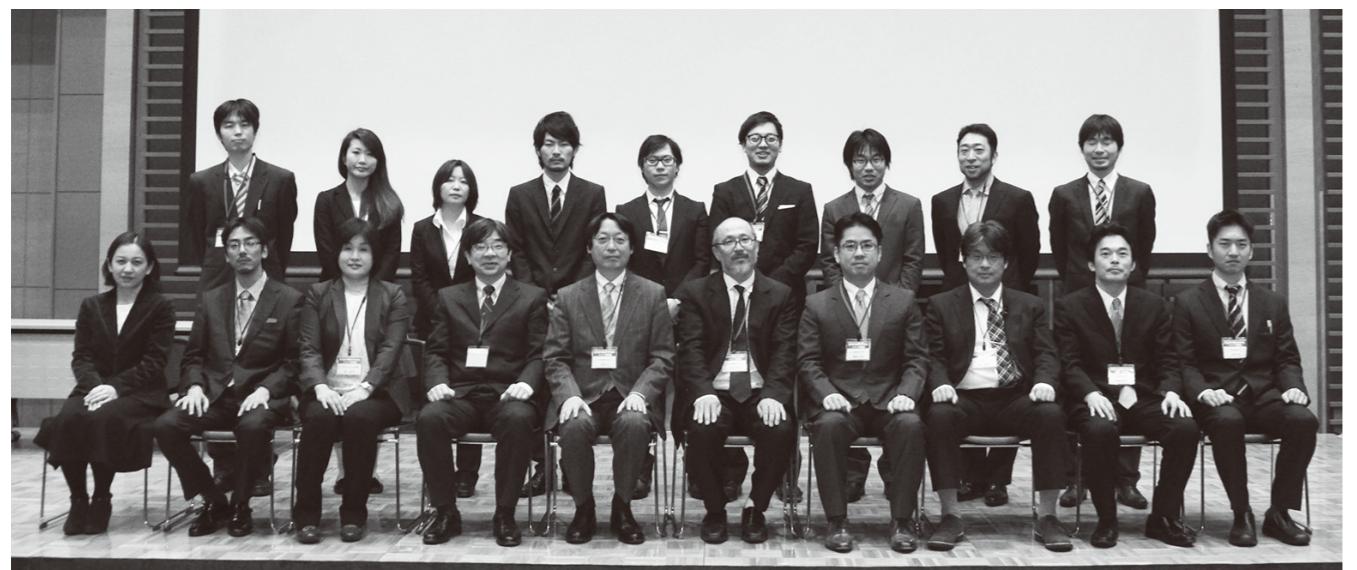
平成 27 年 1 月 29 日（木）、30 日（金）の両日、第 25 回日本頭頸部外科学会総会ならびに学術講演会を大阪市のナレッジキャピタルコングレコンベンションセンターにて開催いたしました。

予想を上回る 1200 名以上の先生方にご参加いただきました。会場での熱い討論はもちろんのこと、その後の会員懇親会にもたくさんの会員が出席下さり、たっぷりと準備していたはずの食事もお酒も瞬く間に無くなつたため、中締めの時間を繰り上げる必要が生じるほどでした。

学会初日の企画講演として、特別講演、教育講演、海外招聘講演が行われました。特別講演は金沢大学がん進展制御研究所の矢野聖二教授をお招きして「分子標的薬によるがん治療：最新の動向」と題してご講演頂きました。教育講演は兵庫医科大学臨床疫学の森本剛教授に「採用される医学論

文の書き方」についてお話をいただきました。同名の書籍を著しておられ、昨今臨床家からの論文投稿が減少している現状を考えるととても有意義なご講演であったと思います。海外招聘講演として、Johns Hopkins University 耳鼻咽喉科・頭頸部外科の David Eisele 教授にご講演をお願いしました。Parapharyngeal space neoplasia-contemporary evaluation and managementについて、多くの経験と最近の動向について講演をいただきました。その他シンポジウム、手術手技セミナー、教育パネルディスカッションと盛りだくさんの内容で進行しました。本学会のメインセッションの 1 つとして、頭頸部外科部門のいわゆるレジエンドに登場いただき鼎談形式で時代を担う若手頭頸部外科医に対するメッセージをいただきました。

河田了教授体制になって初めて主催する全国学会でしたが、教室員だけでは無く、同門会の諸先生方、仁泉会ならびに大学関係者の皆様のおかげで無事終了することができました。紙面をお借りして深謝する次第であります。



支部だより

平成 26 年度 仁泉会愛知県支部総会 新三水会御報告

文責／石垣 宏（学 16 期）、神谷鉄彦（学 14 期）

表記の会を平成 27 年 3 月 29 日（日）、キャッスルプラザで開催しました。今回は御来賓として仁泉会理事長河野公一先生、愛知県支部顧問青木重久先生が出席され、講演会講師として大阪医科大学救急医学講座教授高須朗先生（学 35 期）をお招きました。

午後 3 時から支部総会を開会しました。支部長石垣が開会の挨拶の後、加藤鈴幸先生の議長で議事を進めました。山本明和先生の庶務報告の後、物故の支部会員、杉浦孝正先生、長谷川鉄先生、滝上明良先生、宮川擴先生、伊藤光保先生に対して黙祷を捧げました。会員の近況として神谷の愛知県知事表彰の報告、次に山本先生が会計報告を、同会計監査報告を会計監査代理神谷が行いました。以上で支部総会は終了しました。

3 時 15 分から本番の第 1 回新三水会です。参加者は愛知県支部 11 名、岐阜県支部 6 名、三重県支部 7 名、長野県支部 3 名計 27 名が参加しました。冒頭神谷が歓迎の挨拶を行い、新三水会発足の経緯を紹介し、平成 25 年の仁泉会総会の折、愛知、岐阜、三重三支部長の間で合同交流会を行うことで一致、その後協議を重ね、かつて私達の学生時代に木曽川、長良川、揖斐川の三大河の流域の三県にちなんだ三水会という交流会（会長は当時の産婦人科教授小島秋先生）が行われていた歴史に寄せて、会の名称を「新三水会」とし、発足することにしました。その後三重県支部長子日先生から長野県支部も参加の希望があり、入会の御提案がありました。今回同支部の参加について会員の賛同を求

め、三水の一つ木曽川の上流、源流は長野県であり、参加の条件を満たしているので、満場一致で賛同を得ました。今後新三水会は愛知、岐阜、三重、長野の 4 支部で運営していくことになります。なお開催は 2 年に 1 回、担当は各支部の持ち回りで開催地は各支部に一任することになりました。

ついで来賓御挨拶では河野公一先生が仁泉会と大學の近況を報告されました。まず新三水会が発足したことは地区の支部の活性化を促す上で大変喜ばしいことと御言葉をいただきました。全国には支部が存在しない県がある。このような地区は県を越えた広域化も検討しなければならない。平成 25 年に関東地区合同の仁泉会総会を開催することができた。今年 3 月には四国地区総会を高松で行った。さらに九州地区でも総会を計画している。本学が国際交流協定を結んでいる海外の医科大学のうち、台北医科大学同窓会と交流協定を締結した。平成 26 年高槻高等学校と法人合併し、男女共学の進学校になった。大阪薬科大学との合併は計画が進行中であるなどを紹介されました。

支部顧問青木先生からは先生の大坂医科大学との係わりを中心に御経歴を紹介され、新三水会を大変楽しみにしていると述べられました。

岐阜、三重、長野県支部長からは各支部の現況と新三水会への期待を語っていただきました。

講演会は石垣が座長を務め、高須朗先生によって「救急の活性化へ向けて」～本学救急医療部の取り組みについて～と題して行われました。以下講演の要旨を記します。大阪医科大学の救急医療部と救急医学講座は平成 13 年に開設された。当時大学の所在する三島医療圏は大阪府三島救命救急センターをはじめ二次救急病院群による救急医療体制がすでに構築されていて、本学の救急医療への参入はやや遅きに失する感があった。救急受診患者数は平成 17 年度には 1 万名を超えていたが、平成 24 年度には

約半数に落ち込んだ。一方社会の急速な高齢化の中で、急性期を含めた包括的地域一体型医療圈の構築、研修医、若手医師へのプライマリーケア教育の充実が喫緊の課題となり、各医療圏での救急医療の必要性が今まで以上に高まってきた。平成 25 年度から救急車ホットラインの開設、プロ意識を持った救急医療の展開、各専門科との連携強化、魅力ある救急医学教育、臨床研究の充実などに取り組んでいる。その結果同年度の救急患者は 5660 名と増加、26 年度は 6000 名に達する見込みで今後さらに増加していくと予想される。初期救急医療は多岐にわたる病態判断、重症度に応じた治療、緊急事態の素早い評価が求められる。さらに専門的な高度救急医療を担うことも大学病院の使命であり、それぞれが車の両輪として機能できるように本学の救急医療体制を整備する必要がある。このような講演内容で、講演後いくつかの質問があり、非常に活発で有意義な講演会となりました。

その後記念撮影を行い、懇親会に移りました。



参加者 【ご来賓】河野公一先生、青木重久先生、高須朗先生

会員（敬称略）【愛知県支部】山元貞彦（高医 20 期）近藤龍夫（学 2 期）加藤鈴幸（学 14 期）神谷鉄彦（学 14 期）石垣宏（学 16 期）
加藤一暁（学 21 期）山本明和（学 21 期）田中三枝子（学 23 期）前田敏子（学 24 期）江口秀史（学 30 期）柴田真一（学 30 期）
【岐阜県支部】湯下堅也（学 11 期）小木曾和夫（学 25 期）小嶋昭次郎（学 29 期）小嶋範子（学 29 期）大松由希子（学 33 期）
操裕（学 45 期）【三重県支部】矢津和宏（学 9 期）林宏（学 16 期）子日光雄（学 25 期）中川俊一（学 31 期）後藤亮太郎（学 45 期）
林秀一郎（学 46 期）伊藤雅子（学 49 期）【長野県支部】宮澤健（学 14 期）高島俊夫（学 21 期）野邑敏夫（学 29 期）

支部だより ● ● ●

仁泉会福井県支部だより

文責／原 隆（学 47 期）

仁泉会福井県支部総会が平成 26 年 11 月 29 日（土）に開催されました。今回で第 26 回になります総会が行われた場所は、福井市にある「開花亭」という料亭です。昨年の芦原温泉での泊まりがけ総会とは違い、今年は日帰りで行われました。本会は毎年ほぼ 11 月頃の開催となっております。当日は例年より少し少なめの 6 名の同窓諸兄姉の参加がありました。

私が仕事の都合で少し遅めに会場に到着すると、なにやら楽しげな笑い声が聞こえます。なにか例年にはない雰囲気が…と思いながら入室すると、大阪医科大学名誉教授で大阪労働局衛生指導医でもあります河野公一先生がいらっしゃっていたのです。毎年なにかしらのサプライズがあるこの会ですが、本当にびっくりしました。大阪から近いようで遠い福井県ですので、なかなか大阪医科大学の最近のことなどが分かりません。そこで河野先生にお越しいただき、いろいろお聞きしようとという趣旨のことでした。

さっそく河野先生に、大阪医科大学の最近の話題、大学周辺の環境の変化や近い将来の大学の変化など



様々な非常に興味深いことを細かく、おもしろおかしく語っていただきました。私たちが在籍していた頃の大学、大学病院およびその周辺とはずいぶん違ってきており、自分も含め諸先生方も非常に衝撃を受けた様でした。とともに私は在籍していた頃の大学を思い出し、なんとなく懐かしい思いにかられました。会の大半を河野先生にしゃべっていただきましたが、話が非常に盛り上がり時間があつという間に過ぎてしまいました。

その後例年通り、幹事の加藤先生からいつも通りのテキパキとした進行で報告、庶務、会計報告が行われました。加藤先生からの幹事報告は今年が最後になります。というのも、この会をもって会長、幹事が交代することとなりました。福井県支部会長は西野慎吾先生でしたが、この度安井多喜雄先生に交代となりました。幹事は加藤佳典先生からなんと私、原隆が担当いたします。この場をお借りして言わせていただきますが、入会 4 年程度で幹事なんてと驚いておりまして、突然の任命で多分というか本当に至らぬ点が多数あると思います。少しずつはなると思いますが仕事を覚えていきますので諸先生方には一人前の幹事になるのを気長に待っていただけたらと思います。

来年（H27 年）も同時期に開催される予定です。次回は新しい福井県在住、在職の先生方のご参加も心よりお待ちしております。今後も開催させていただいた折にはご報告させていただきます。

なお当日の参加者は以下の通りです（敬称略）。

青山文代（学 21 期）	加藤佳典（学 24 期）	安井多喜雄（学 23 期）
松本順雄（学 34 期）	津田明美（学 31 期）	原隆（学 47 期）

（敬称略）

支部だより ● ● ●

平成 27 年度仁泉会 大阪府支部連合会支部長会

文責／中透（学 25 期）

平成 27 年 5 月 9 日（土）午後 4 時 30 分よりホテルグランヴィア大阪 20 階「名庭の間」にて、平成 27 年度仁泉会大阪府支部連合会支部長会が 32 名の参加で執り行われました。

まず学 25 期大西先生が開会を宣言され、次に学 12 期佐藤会長のご挨拶があり、引き続きご来賓の仁泉会理事長河野公一先生から次のようにご挨拶がありました。

「平素から仁泉会にご助力賜り有難うございます。一般社団法人になってからの定款の一部変更を考えています。奨学金制度、西医体への援助など学生に関わっていますので、学生を準会員にする制度を作り、その頃から仁泉会への理解を深めたいことです。

もう一つは、会費免除会員の先生から、80 歳以上でもむしろ払い続けたいとの申し出が多く、それを受けられる制度にしたいということです。

仁泉会の活性化では、昨年関東地区ブロック会を日本大学酒谷教授を中心に開催して頂きました。また徳島県、愛媛県を活性化するため四国 4 県合同ブロック会も行われ、すでに構築されていた三重県、愛知県、岐阜県の三水会に長野県、浜松から西の静岡県も参加して合同でブロック会をしていただきました。九州でも合同仁泉会を予定しています。

学長選考が行われており、教員の選挙で上位 2 名の中から 6 月 30 日の大学理事会で最終決定が行われます。

教授選考も教授会から 3 名の推薦をし理事会で最終決定になります。大学理事会の力が強力になっています。

仁泉会で一番多数の大坂府支部の先生方には、今後も協力を賜りたいと思っています。

よろしくお願い致します。」

会務報告では、学 18 期加藤先生から平成 27 年 3 月末現在仁泉会の大坂府下の支部数は 50 支部（支部長 44 名、支部長不在 6 支部、支部未組織は狭山、阪南市の 2 地区）あり、大坂府在住仁泉会会員数は

2447 名であると報告され、その後平成 26 年度 14 名の物故者に黙祷がされました。

次に平成 26 年度事業報告が学 17 期寺内先生より報告されました。

出席各支部長より自己紹介と支部報告があり、年 1 回定例で支部会を開いて活発に活動している所や、全く活動歴無しの所、少人数なので集まってブロックで開催している所、研修指定病院を擁している支部では、若い先生方も多数参加されているなど報告がありました。

議事では、仁泉会大阪府支部連合会平成 26 年度収支決算書（案）が学 27 期上野先生より説明され、監査報告が学 11 期定延先生よりされ承認されました。

平成 27 年度事業計画（案）が寺内先生より報告され承認、平成 27 年度収支予算書（案）が上野先生より報告され承認されました。

3 年毎の役員改選は大阪府連役員推薦立候補者一覧の通り承認されました。

大西先生の閉会の辞で懇親会に入りました。

懇親会も佐藤会長の挨拶があり、学 18 期飯田先生の硬式テニス部の厳しかったことが今の病院経営に非常に役に立っているというお話の後、乾杯のご発声をして頂き和やかに会は進行し、和気藹々と楽しい時を過ごし散会となりました。

仁泉会大阪府連会長就任（再任）に当って

文責／仁泉会大阪府支部連合会会長
佐藤公彦（学 12 期）

平成 27 年度の仁泉会大阪府連支部長会（5/9 開催）におきまして、本年度が 3 年毎の役員改選の年に当つて、慎重審議の結果、私は会長を続投させて頂く次第と相成りました。前会長の太田元治先生（学 4 期）におかれましては、満 80 歳で退任されました。私も 3 年後、その轍を踏襲させて頂きたく、宜敷くお願い申し上げます。

所で、去る 5 月 17 日の大阪都構想住民投票は巷間、老人に潰されたように云われていますが、東大阪市民である私には、大阪府医師会の中でも、誇り高き「大阪市域連合」の医師会活動が勝利を勝ち取ったものと思っております。具体的戦術としては、街角掲示板に「** 区が消える。** 区を守ろう。** 区

医師会」の標語が随所に見られ、また、患者の一人ひとりに住民投票の意義を診察時に懇切丁寧に知らしめた点が効いたと思われます。

戦後の医師会活動は是々非々の下に、左右の政党を抱き込んで、世界に冠たる健康保険制度を構築してきましたが、選挙に強く、戦う医師会と云う往年の医師会活動の原点を大阪市域連合が見せてくれたような印象で敬意を表する次第であります。

仁泉会大阪府連のルーツもその辺にあって、昭和 30 年前後から、同窓のよしみで大阪市域と郡部（府下とは呼称せず）間での医業経営の情報がなされた事にあったようです。即ち、昭和 26 年 12 月の 1 点当りの改定で、大阪市域は甲地適用の 12 円 50 銭、郡部は乙地適用の 11 円 50 銭が定着していた中で、仁泉会会員は個々の間で、甲地の実情と乙地の苦渋を聞いて頂く機運があったようで、その辺から昭和 30 年の健保改悪反対大阪医師大会へと発展し、昭和 33 年 6 月改定の甲地 13 円 50 銭、乙地 12 円 50 銭で合意。その後、甲地・乙地の格差是正に対する医師会活動から、甲表・乙表に移行し、平成 6 年 4 月に甲・乙は一本化された経緯があります。



出席者（敬称略）

来賓／河野公一 仁泉会理事長

会長／佐藤公彦（学 12 期）副会長／寺内陽（学 17 期）副会長／霜野良一（学 28 期）理事／飯田稔（学 18 期）理事／加藤雄明（学 18 期）理事／革島康雄（学 20 期）理事／大西洋一郎（学 25 期）理事／西山和夫（学 25 期）理事／中透（学 25 期）理事／上野豊（学 27 期）理事／御前治（学 33 期）監事／谷川泉（学 10 期）監事／定延和夫（学 11 期）支部長：中央区南／今川得之亮（学 22 期）北区／末澤慶昭（学 19 期）西淀川区／宮崎達久（学 19 期）旭区／上出茂夫（学 20 期）城東区／福田吉彦（学 29 期）鶴見区／宮浦康児（学 12 期）阿倍野区／福本敏子（学 24 期）東住吉・平野区／園谷昇（学 21 期）吹田市／占部健（学 31 期）摂津市／黒本成人（学 22 期）茨木市／中島周三（学 32 期）高槻市／櫟原茂之（学 22 期）寝屋川市／河野能治（学 17 期）枚方・交野市／森川浩志（学 36 期）松原市／松本泰仁（学 20 期）堺市／村木宏要（学 27 期）岸和田市／大植睦（学 40 期）

支部だより ● ● ●

平成 26 年度 尼崎伊丹支部総会

文責／鈴木克司（学 31 期）

平成 26 年度尼崎伊丹支部総会は 3 月 15 日に神戸市中央区の神仙閣にて開催されました。当日日中に兵庫県医師会館にて「認知症の人と家族のための県民フォーラム」が開催されるため、一昨年同様、参加者の便も兼ねての開催です。午後 5 時 30 分より開会、昨年死去された中井益代先生（学 1 期）の靈に黙祷を終え大森英夫新支部長（学 25 期）より「前任の大隈義彦先生（学 9 期）の後を受け従来からの先輩後輩で和気藹々とやってきた伝統を継続したい」との挨拶があり、今回本部よりお招きした安藤嗣彦副理事長（学 20 期）より同窓会の現状につきお言葉がありました。安藤先生によると、兵庫県に限らず毎年総会開催できている支部は少なく解散話が出ている支部もあるそうで、かつてのように製薬会社に頼って開催することが昨今困難になっていることや新臨床研修制度開始以後、若い同窓の母校への愛着が薄れることなど

が背景になっている可能性を指摘され、本県の試みとして支部連合総会を開催し同日各支部総会も開催してから合流するとのアイデアももっているとのことでした。

議事は鈴木による会計報告（別記）で無事承認されました。恒例の特別講演は元母校一般消化器外科の松浦浩太郎先生（学 35 期）の座長のもと、元母校第 2 内科で活躍された濱本順博先生（学 40 期）による「当院の消化器診療」でした。濱本先生は安藤先生の診療所でも超音波検査をされていた時期があり、尼崎市でお父上の後を継ぎ消化器診療に特化した内科診療所を開設され、腹部超音波検査・上部下部消化管内視鏡検査や治療に至るまで精力的な診療をされています。無床診療所になってから腹痛を主訴に来院される患者で「このまま帰宅させてよいのか」悩む症例は専門科目を問わず誰もが経験するところですが、開業数年間に複数経験された「こわい症例」を供覧され、超音波検査は力強い武器となるとの信念で乗り切ってこれら体重減少もなく独歩で来院される中にも見逃してはならない腹部大動脈瘤や重症急性胰炎を経験されたとの話に参加者一同の強い関心を集め、小児科・循環器内科・呼吸器内科など消化

器内科以外の専門科目の方も含め多くの方から活発な質問が寄せられ、先生は丁寧に答えておられました。

講演終了後の懇親会でもいろいろな情報交換がなされ、安藤先生が各支部を回られている際にいつもやられている学歌齊唱を参加者全員で行い閉会となりました。当支部でも毎年物故される同窓があり、現在濱本先生が最年少で若い方の加入が悲願ですが、ありがたいことに新たに会費自動引き落とし手続きをとって下さった方がボツボツ出ています。当支部では単に親睦だけでなく地元の医療行政に関して正式ルートでは入手できない貴重な情報を得る機会にしたいと思い、また近くで活躍している同窓を知つてもらうために、大隈支部長時代からこのような形式で開催しております。会員になっても決して無理なお願いをするわけではありませんので、開業・病院幹部就任などで地域に定着を目指される方にはお気軽に加入いただければ幸甚です。



上／学歌齊唱
左／濱本順博先生

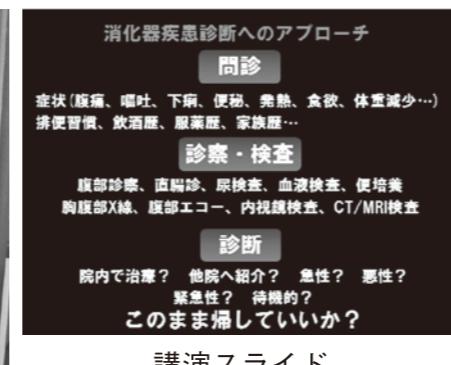


当日参加者

【ご来賓】仁泉会副理事長 安藤嗣彦先生
会員（敬称略）有澤基・大隈義彦・大森英夫
岡井良男・金澤豊純・古賀亮一・島田泰明
島田哲志・鈴木克司・辰巳和人・陳京生
徳田正邦・中山康弘・長谷川真知子・濱本順博
松浦浩太郎・山崎剛（17 名）



安藤副理事長挨拶（前列左端が大森新支部長）



講演スライド

尼崎伊丹支部会計報告（平成 26 年 3 月～27 年 3 月）

平成 26 年 3 月 9 日現在残高	3,991,073 円
平成 26 年 3 月～平成 27 年 3 月収入（平成 27 年 3 月 9 日現在）	
徴収会費（平成 26 年度分）（27 名、うち本部会費免除者 4 名）	419,000 円
平成 26 年 3 月 9 日支部総会当日徴収参加費	170,000 円
利息	315+307+315=937 円
収入合計	589,937 円
平成 26 年 3 月～平成 27 年 3 月支出（3 月 9 日現在）	
平成 26 年 3 月 9 日支部総会開催関連費	
内訳 京都つる家 阪急うめだ本店支払い	172,095 円
講師謝礼	30,000 円
本部会費（平成 25 年度分）	220,000 円
同（平成 26 年度分）	230,000 円
兵庫県支部連合会費（平成 25 年度分）	26,000 円
同（平成 26 年度分）	27,000 円
振込手数料	735+756=1491 円
通信費（切手代）	3,280 円
支出合計	709,866 円
平成 27 年 3 月 15 日現在残高（①+②-③）	3,871,144 円

支部だより●●●

平成 27 年「仁泉会姫路（播州会）地区総会・学術講演会」報告

文責／岡村信介（学 23 期）

平成 27 年 3 月 14 日（土）、ホテル日航姫路において、仁泉会播州地区連合総会・学術講演会・懇親会を開催しました。

総会には安藤嗣彦先生（仁泉会副会長・兵庫県支部長）が参加してくださいました。仁泉会の各支部の現況報告がありました。総会での協議では、今後とも年会費の徴収をすること、また会費の残りがある間は、年 1 回の学術講演会と懇親会を続けることが決まりました。

吉田先生から平成 26 年度の会計報告の後、講演会を行いました。



後列左から 小西、吉本、吉田、間島 前列左から 岡村、松岡、安藤、寺前、段、福本

講師は母校内科学 I（糖尿病代謝内分泌内科）講師の寺前純吾先生（学 39 期）による「糖尿病治療の最前線」のタイトルで講演して頂きました。

講演会の後、記念撮影を行い、懇親会では寺前先生も参加頂き、いつものように大阪医科大学学歌の「暁映ゆる東の…」の合唱で始まり、和気相合に行われました。

参加者（敬称略）

段 武夫（学 6 期） 福本 攻（学 15 期）
松岡伸二（学 19 期） 安藤嗣彦（学 20 期）
小西慎吾（学 21 期） 岡村信介（学 23 期）
吉田悌三郎（学 27 期） 宮本茂好（学 29 期）
間島毅彦（学 31 期） 吉本健朗（学 36 期）

これまで、姫路市内のホテルで開かれていた総会・学術講演会は、来年度は趣向を変えてフランス料理とワインのコラボで親睦を深めたいと考えています。近づきまし たらご案内させて頂きます。

受賞・受章報告

学部 19 期 横山光昭先生

兵庫県功労者表彰（福祉功労）

母校同窓会といたしまして慶事でありますので
ここに報告させていただきます。事務局編集係

学部 27 期 茂松茂人先生

藍綬褒章（保健衛生功績）

役員交代

〔学部 9 期評議員〕

前評議員 矢津和宏先生



新評議員 大隈義彦先生

〔学部 25 期評議員〕

前評議員 前田裕子先生



新評議員 石原 正先生

〔学部 36 期評議員〕

前評議員 森川浩志先生



新評議員 野中親哉先生

〔福井県支部長〕

前支部長 西野慎吾先生（学 11 期）



新支部長 安井多喜雄先生（学 23 期）

〔岸和田市支部長〕

前支部長 谷川 泉先生（学 10 期）



新支部長 大植 睦先生（学 40 期）

〔兵庫県支部連合会〕

前会長 渡辺信治先生（学 9 期）



新会長 日下孝明先生（学 16 期）

〔西宮市支部長〕

前支部長 乃木稜介先生（学 28 期）



新支部長 仁木正己先生（学 32 期）

〔大分県支部長〕

前支部長 堀永孚郎先生（学 18 期）



新支部長 種子田秀樹先生（学 19 期）

〔福岡県支部長〕

退任 津森俊徳先生（学 19 期）

〔京都支部長〕

前支部長 水谷 均先生（学 26 期）



新支部長 曽我部俊大先生（学 27 期）

〔浪速区支部長〕

前支部長 橋村直隆先生（学 31 期）



新支部長 久保田泰弘先生（学 36 期）

クラス会だより

平成27年度「学四会」開催

文責／西村 保（学4期）

「学四会」とは学部4期生の同級会の事です。

今年の「学四会」は去る平成27年4月11日（土）に京都木屋町にある「露庵 菊乃井」で開催されました。

今年は卒業60年目の節目の年に当たります。昭和30年3月、20才半ばの新医学士が夢と希望に充ちて母校を卒業してから早くも60年の歳月が流れ去りました。当時の紅顔の美青年？変じてヨレヨレのオジンに成り果てました。87名の同級生の内、既に59名が亡くなっています。生存者の中でも体調不良で欠席の返事が多くありました。



当日の出席者は12名でしたが、3名は夫人方だったので、会員は9名で「学四会」始まって以来、初めて一桁になりました。全員ヨレヨレですが、頭と口だけは達者で、伝統の京料理を賞味しながら、学生時代の思い出を中心に談論風発、時の過ぎるのも忘れましたが、予定の時刻となり、来年の再会（鬼が笑いますが）を約して散会しました。

当日の出席者は下記の如くです。
雨森、遠藤（同夫人）、太田、川上、小林弘明、小林俊介（同夫人）、斎藤、西村、東（同夫人）
以上12名

所で、今年の医師国家試験での本学の合格率は92.0%（全国平均91.2%）で、80校中47位でした。昨年は87.4%で、ビリに近い76位でしたから僅かに挽回したと云えますが、今後、ますますの奮起を望みます。

クラス会だより

38会（昭和38年卒、同期会）報告

文責／太田 稔（学12期）

今回で28回目を迎えた38会は、平成27年4月11日（土）に京都の有名料亭の一つにあげられる「菊乃井」に集まり京都懐石料理を味わう会がありました。

京都は2年前の25回の時にも「柊家」さんと「美濃吉」にお世話になりました。季節がら予約の難しいところ今年も内田先生のお世話で京料理の老舗菊乃井さんにて開催することが出来ました。

当日は日本医学会総会が京都での開催中のこともあり、観光シーズンの京都の市内の交通は込み合うことを予想していましたが、午後6時には、全員集まり集合写真に収めました。

会の初めに「和食が文化遺産登録されるまでの道筋」について、菊乃井のご主人村田吉弘さんにお話ををお願いしました。

そこで日本料理の文化遺産保存への苦労を披露されました。日本料理を文化としての見方がこれまでに一般的な認識の中でも見られなかった、官公庁でも調理師免許は各地の保健所で厚生労働省管轄がありました。文化的な資産として保存の認可を求めるために、文化としての要素を示す条件として、料理の存在が季節情感を示すもの、食材の味を造りだす、栄養学的にバランスに優れている、国民生活に密着

したものであることを文部科学省への働き掛けをするための手順としたと熱を込めて語られました。

総会は議長の加藤先生によって進められ、当番幹事を代表して内田先生の歓迎の言葉に続いて大学理事長を務めている植木先生から最近の大学の話題として新しい手術室を備えた手術病棟、最新のがん治療の一端のホウ素元素を利用してのホウ素中性子補足療法（BNCT）の研究施設として関西の大学研究施設の中心部門を担うことになったこと、大学の財政が右肩上がりの状態が続いていることを披露されました。会計報告は丸山優子先生から示され承認されました。宴会に入り松原先生の開会挨拶で始められ古谷先生が進行を務めました。芸子さん、舞妓さん三味線方の出演で京都らしい雰囲気の内に進みました。芸子さんの舞は年期の這入った三味と共に流石に際立ったものでした。舞妓さんは可愛らしいの一言に尽きました。料理の品書きは凡そ48種類にも及ぶものでしたが、一皿の中に3-4種類の料理食材が品よく盛られたもので注意深く味わなければ、見落としてしまいました。

それに語られた近況には、来年までの元気を保ちたい気持ちが籠められていたのが印象的でした。午後8時過ぎに私の中締めの言葉で宴会は終わり、お別れに際して京都役員より「末富」のお菓子のお土産が手渡され、来年の金沢での再会を約束して散会になりました。2次の会は京都ホテルの13階のスカイラウンジで、ひと時を過ごし宿泊のホテルにそれぞれ帰られました。



参加者：秋岡 寿、植木 實夫妻、内田 實夫妻、大崎 洋夫妻、太田 稔、大西正則夫妻、奥日出一夫妻、梶川健造夫妻、加藤一博夫妻、西村道也夫妻、平野勝彦夫妻、古谷幸夫、星野忠康夫妻、松原 健夫妻、丸山俊郎、丸山優子、三村峻三夫妻、山本哲也、（敬称略 アイウエオ順）

クラス会だより

学14期卒後50周年記念36会同窓会

文責／島田真久（学14期）

昨年、大阪で開催された 36 会総会で、来年は卒後 50 年になるから、京都でパーと 50 周年を開催しようという事が決まり、5 月 16 日、大澤先生の世話で、かつてダイアナ妃も訪れたと言われ、予約も大変取りにくいと言う京都の老舗「岡崎つる家」で卒後 50 周年記念 36 会同窓会が新緑覆われた見事な庭園をバックに盛大に行われた。当日の出席者は、有澤、井上、石崎、上原、大澤、大塚、奥沢、勝、上出、川部、喜田、木下、小谷、児玉、近藤、島田、杉之下、田崎、中島、内藤、花房、藤井、福永、宮澤、森本親娘、横見、吉田の計 28 名で、何時も以上の出席者で大澤、田崎両先生のワインの差し入れもあり大変にぎわった。総会は、大澤先生の挨拶で始まり、仁泉会評議員の福永先生より、母校の近況報告として、最近の大学の財政

状況は健全であること、中央手術棟が着工されたこと、大阪薬大を法人レベルで合併したこと、母校の国試の合格率が最近低下しているのでその対策が講じられていることなどが報告された。最後に石崎先生より、会計報告があった後、宴会に入り、各人の近況報告がおこなわれた。息子に診療所を譲り、自身は診療を辞めた話がちらほら聞かれた。来年は、有澤、福永、吉田先生のお世話で兵庫県でおこなうこととなった。

翌日のゴルフ組は、快晴のもと、ゴルフ場のバスのお迎えで、朝 7 時半、京都ホテルオーディアを出発し、大澤先生の紹介による名門コースであるジャパンエースゴルフ俱楽部でのプレイでした。滋賀、栗東の里、鶴冠山を背景に全長 6,880 ヤードの落ち着いた気品の漂うコースです。丘陵・林間コースで池と林に囲まれ、オーソドックスなコースレイアウトのなかにも微妙なアンジュレーションのフェアウェイで戦略的に魅力あふれるホールが広がり、また、池が



平成 27 年度卒後 50 周年記念 36 同窓会「岡崎つる家」にて

巧みに利用され美しく難しい名物コースがあります。待ち時間も全然なくほぼ貸切状態であり、キャディの仕事ぶりも良く、距離、ボールの行方などパーフェクトで凄く気持ち良くラウンドできました。プレイ後のミーティングは庭園の美しい古民家風の離れのすき焼きハウスで美味しい近江肉と大澤先生差し入れの高価なワインで堪能しました。成績は皆様の意見でもあり公表しませんがハンディの上限がないことにより不肖私が図らずも優勝してしまいました。ちなみにグロスはブービーメーカーと同じでした。申し訳ない。世の中何が起こるか分からぬことを痛感しました。今年は 50 周年記念ということで 3 組 12 名の参加でしたが成績は二の次で全員後期高齢者で完走できたことが一番であると慰め合い和気あいあいで楽しくラウンドしました。ちなみにベストスコアは長野県からの出席で宮澤先生のグロス 88 (44, 44) でした（ゴルフ組 優勝者、福永記）

観光組は、大澤先生の奥様と茶道表千家



36 会滋賀県「ジャパンエースゴルフクラブ」にて

教授である姉の楠部さまのお世話で、香老舗「松栄堂」本店にて、貴重なる香道をちょっぴり体験をすることができた。出席者は、大澤（奥様）、楠部、有澤、島田夫妻、杉之下、田崎先生ご息女の 3 姉妹とこの日に合流した神谷先生の計 12 名であった。会に先立ち、松栄堂主人、志野流、畠正高社長さんから、聞香（もんこう）についての基礎知識を教えてもらった後、香を当てるテストである聞香が行われ、平安時代の雅な京文化にほんの少しだけ触れることができた。昼は京の老舗、高台寺の「土井」で、八坂の塔が正面に見える京の町並みを見下ろしながら懐石料理をいただいた後、縁切り神社で有名な「安井神社」を訪問して解散となった。今、縁切りすると、介護をしてくれる人がいなくなるということで、皆さんあまり関心がなかったようです。ちなみに、縁切りしたい No.1 は、長男の嫁姑のようで、札が一番多く見られました。



36 会高台寺「土井」にて

平成 28 年度 学14期（36会）同窓会のお知らせ

日 時：平成 28 年 5 月 14 日（土）15 日（日）

場 所：海と風と緑に包まれるシーサイドリゾートホテル「舞子ビラ神戸」

※風光明媚な素晴らしい眺望を生かしたシーサイドリゾートで寛いでいただきたい、

36 会の皆様には万障繰り合わせて出席していただきますよう予定しております。

クラス会だより

学24期(あかつき会)クラス会報告

文責／森本博子（学24期）

昭和50年に卒業した我々、学24期生は気がつけば今年で卒業40周年となります。

この記念すべき年に4月4日、おおさか、あべのハルカスでクラス会が開かれました。幹事の淀井先生、石田先生、天津先生、柿本先生、神田先生、久保先生、濱田先生のお世話で、昨年あべのハルカスにオープンしたマリオット大阪都の20階の宴会場で開かれました。参加者は42名!! 久しぶりに顔を見せてくれた人も多く、にぎやかな会となりました。

石田先生の司会で、最初に2年前の金沢でのクラス会の後、鬼籍に入られた森田先生、白川先生に黙祷を捧げました。その後、垣内先生の挨拶、乾杯が始まりました。我々、学24期の前後の数年の学年の物故者数に比べ、学24期の物故者の多いことが指摘され、大学入試のときの学園紛争、その他我々の学年はストレスの多い年月を過ごしてきているせいでしょうか。

地上300メートルからの大阪の街の夜景を楽しみながら前菜から始まるフランス料理を頂きました。杯がすすんだところでマイクをまわし各自近況報告となりました。それぞれ健康に不安を感じる人が多くなって病気の話が増えてきました。そろそろ仕事を減らしている人、余暇を楽しんでいる人、まだまだ子どもの学資を稼がなくてはならない人、女子大

の先生になることを夢見ている人、などさまざまでした。中締めの挨拶の後、引き続き19階のラウンジで二次会となりました。各テーブルでは話が盛り上がっていたようです。

ホテルに宿泊したのは17名でした。宿泊客は早朝7時から一般客の前にハルカスターに上がるというので早く起きて眠い眼をこすりながら、展望台に上りました。エレベーターで一気に地上300メートルまで上がる気分は、まるで天国にでも昇っていくようでした。あいにく曇りで遠くまでは見渡せませんでしたが360度広がる眺望を楽しみました。その後スタイリッシュなホテルの朝食を済ませたあと、10時にホテルを出発し、帝国ホテルに向かいました。

そして帝国ホテル前のOAP港からグルメ・ミュージック船“ひまわり”に乗船しランチクルーズです。貸切のために幹事さんたちの家族や職員さんたちを動員されたそうです。全員がビニールカッパを頭からかぶっている一団の船を尻目に、我々は豪華なクルーズ船で帝国ホテルのランチに舌鼓を打ちながら、大川両岸の満開の桜をめで、ゆったりとした船旅?をひととき楽しみました。ちょうど雨がやみデッキにあがって船上からの桜を堪能しました。

クルーズのあとは二日間の余韻を楽しみながら帰路につきました。

尚、2年後のクラス会は高知で開催されることが決定しました。今回参加できなかった人は是非次回は顔を見てください。



平成27年4月4日 大阪医科大学あかつき会 同窓会 於：大阪マリオネットホテル

仁泉ひろば

jinsen-park

本学の手術件数(2015年度版)

文責／西村 保（学4期）

去る3月、今年も週刊朝日から「手術件数でわかるいい病院2015」が発刊されたので昨年に引き続き昨年度における本学の手術件数（主にがん）について抜粋する。

手術件数の多い病院が所謂エエ病院と云うわけではないが、手術件数の多い病院はそれなりに設備もスタッフも揃っているわけであり、ある有名な外科医は「数は、すなわち質である。手術の数をこなさなければ医療の質は絶対に向上しない」と云っている。従って手術件数は病院選びの有力な指標の一つになると思われる。

(脳腫瘍) 本学は106例で全国ベスト40病院中35位、近畿ベスト30病院中8位である。昨年は108例で、それぞれ30位と7位であった。

(心臓手術) 本学は240例で全国ベスト40病院には入っていない。近畿ベスト30病院中では11位である。昨年は324例で、それぞれ26位と7位であった。

(乳がん) 本学は183例で全国ベスト40病院には入っていない。近畿ベスト30病院中では15位である。昨年は187例で、近畿30病院中14位であった。

(肺がん) 本学は104例で全国ベスト40病院には入っていない。近畿ベスト30病院中17位である。昨年は94例で近畿ベスト30病院中19位であった。

(肝・胆・膵がん) 本学は117例で全国ベスト40病院には入っていない。近畿ベスト30病院中では16位である。昨年は98例で近畿ベスト30病院中、同じく16位であった。

(胃がん) 本学は177例で全国ベスト40病院中16位である。近畿ベスト30病院中では堂々の首位である。昨年は188例で、それぞれ13位と2位であった。

(大腸がん) 本学は505例で全国ベスト40病院中3位であり、近畿ベスト30病院中では堂々の首位である。昨年は440例で、同じく3位と首位であった。

(前立腺がん) 本学は102例で全国ベスト40病院中19位であり、近畿ベスト30病院中3位である。昨年は110例で、同じく13位と3位であった。

(腎がん) 本学は54例で全国ベスト40病院中29位である。近畿の記載はなかった。昨年は49例で38位であった。

(膀胱がん) 本学は384例で全国ベスト40病院中堂々の首位である。昨年は287例で2位であった。

(子宮・卵巣がん) 本学は203例で全国ベスト40病院中9位で、近畿ベスト30病院中2位である。昨年は、それぞれ7位と3位であった。

(頸頭部がん・甲状腺がん・血液がん) 本学は全国ベスト40病院に入っていない。

以上、通覧すると昨年と同じで、脳腫瘍、胃腸系、婦人科系、泌尿器系のがん手術件数は、全国有数で誇るにたるが、反面、乳がん、肺がん、肝・胆・膵がん等の

がん手術はマイチの感がある。今後の奮起を望みたい。

所で、3月には本学にとって二つの喜ばしいニュースが報道された。

その一つは、本学と大阪薬科大学とが合併して、何年か先には大阪医科薬科大学として、医学部、薬学部、看護学部の3学部から成る大学が誕生することである。

もう一つは、大学の敷地内に、次世代がん治療である「ほう素中性子捕捉療法(BNCT)」の医療拠点として「関西BNCT医療研究センター」が設置される事になり、平成31年の開所を目指している事である。

BNCT とは、がん細胞をピンポイントで破壊するがん治療法である。つまり、がん細胞が栄養分として取り込み易いほう素薬剤を投与した患者に中性子線を照射すると、がん細胞内に取り込まれたほう素が核反応を起こし、その時に発生した放射能でがん細胞のみを破壊するので副作用が少ないのが特色である。

本学、阪大、大阪府大、京大などが連携して研究や治療を行うそうである。

その他、学内では、目下、新手術棟が建設中であり、次いで5号館の解体工事に連続して、新病棟の建設が始まり、約10年後、つまり本学創立100年には、すっかり生まれ変わるそうである。

いずれにしても OB にとって母校の発展は喜ばしい限りである。

まんが

基準

ハリー・ほん太（学31期）



リレーエッセイ

ときめき

一ノ名 正（学31期）

もともと整理が苦手で、何でもきっちりと片付けていれば、仕事や趣味などもっともっと効率よくはかどったのに情けない。と思っていると“人生がときめく魔法の片づけ”という本が出版され、ベストセラーのことである。読んではいるが、人生を片付けに追われない！捨てる基準はモノを手にした瞬間に“ときめく”かどうか。片づける順番は衣類→本→書類→小物類→思い出品。などが書かれていること。この言葉を参考にと思い、家のリフォームの際に“ときめき”的有無で一気に片付けようと考えた。

古いダンボール箱から、1977年（昭和52年）に開催された大阪医大50周年祭に関連したものが出てきた。当時5回生であった昭和54年卒（学28期）の先輩方が中心になって開催された。コンサートや模擬店などだけではなく、阪急高架問題（当時、高架ではなく、八丁畷の交差点は常に渋滞していた）や一般市民の方々からの医療問題に関する論文コンクールも企画された。また、多くの教授や各科の先生方に、講演やディスカッションをしていただいた。当時の医学部の祭りとしては画期的でかつ斬新的で、他大学からの関心も高く、高槻在住の人々も参加することにより、高槻イコール大阪医大であったと思っている。そのとき使った衣裳、道具、文具や印刷

物などは捨てたが、記念誌はときめきのひとつとして大切にしまっている。

同級生や後輩とともにバドミントン部を創部したが、ガットが切れたラケットや初めて作ったユニフォームや様々なものが残っていた。バドミントン同好会をクラブに昇格するために奔走し、落成間近の体育館に無理を承知でバドミントンコートのポールやラインをお願いしたことなどが思い出される。当時の西医体の各クラブの参加名簿をみると今をときめく偉い先生方がたくさんおられた。また、クラブを通じて知り合った他校の友人と、医師になってからもお世話になったり、世話をしたりしている。学生時代にクラブ活動に参加したことは、その後の人生に大きな影響があった。さすがにもうユニフォームや壊れたラケットにはときめかなかったが、後輩が毎年持ってきてくれる西医体のパンフレットは大切にしている。

医者になってからの学会発表や論文の資料、スライドなどや医学書など結局思うように捨てることはできなかった。それはやっぱり大阪医大在学中や勤務中において人生の一番重要なときを過ごさせてもらったという感謝の思いとずっと“ときめき”を感じているものばかりが残っている、ずっとときめいていたいと思っている今日この頃である。

高校の内科検診のときに学校医部会で活躍されている伊賀先生からリレーエッセイ頼むでと言われました。突然びっくりしましたが、やっぱり、大阪医大のニュースや記事をみるとついときめいてしまいました。

次は、パワーとリーダーシップを兼ね備えた千福貞博先生（学32期）にお願いしました。

八起会開催のご案内

平成27年度の学8期（昭和34年卒）クラス会「八起会」を下記の通り開催致します。
多数の先生方のご参加をお待ちしております。
詳細は9月中に再度ご連絡致します。

記

日時：平成27年11月14日（土）午後6時～
場所：摂津峠花の里温泉「山水館」
高槻市大字原3-2-2 TEL：072-687-4567

幹事 野沢 佐々木

会員追悼

芝山先生の思い出

文責／安積正作（学 35 期）

去る 2 月 15 日、氷雨の降る午後、本学病理学教室名誉教授の芝山 雄老先生が旅立たれ、早 3 か月になりますが、いまだに哀惜の念に堪えません。

芝山先生は母校大阪医科大学に入学されて以来、ほぼ半世紀にわたり母校に在籍されていました。私は母校病理学教室の大学院生、助手、非常勤講師と先生と 30 年近くお付き合いさせて頂きました。先生の業績は広く知られるところですが、今回、先生の人となりを仁泉会の諸先生方にも知っていたいだきたく、長文かつ乱文ですが投稿致しました。少しでも生前の先生を偲んで頂ければ幸甚です。尚、本誌第 46 卷第 3 号に中田勝次名誉教授が寄稿された会員追悼「芝山雄老君の死を悼む」と一部内容が重複していますが、ご容赦下さい。

芝山先生は昭和 22 年生まれ、中学・高校は神戸市の六甲学院で学ばれた。先生は生前よく六甲学院出身者の OB 会に出席されていた。どのような学校生活だったかと尋ねたことがある。すると「登山ばかりして受験勉強は全然しなかった。カトリック系の学校だったが、宗教教育はなかった。先生になぜ宗教を教えないのか？」と尋ねたら、「自分の背中を見たらわかる。」と言われたのを覚えている。あの教育方針は自分的人格形成に影響した。」と言われていた。

先生は学問に対する姿勢については自分にも、他人にも大変厳しい人だった。現役で大阪医科大学に入学されたが、基礎学力がなくて同級生に果たしてついていけるか心配だから、入学式が始まるまでにドイツ語文法の教科書を全て予習したそうである。また医師国家試験が終わって翌日から病理学教室に入室された。私が卒業した頃は卒業後に国家試験があつて発表まで 1 か月以上あり、その間国内外に長期旅行をする学生が多かった。先生にその話をすると、「卒業して国試が終わったら、翌日から仕事するのが社会の常識。最近の学生は何考えているんだ。」と大変不機嫌になられたことを覚えている。

さて 1988 年（昭和 63 年）私は大学院生として病理学教室に入室した。当時、芝山先生は助教授で、学内に大変厳しい先生として名聲をはせていた。私

があいさつに行くと開口一番、「僕は大学院生を指導する時は、院生の人格を認めない厳しい指導をしていた。もう歳だしこれからはそんな教育はしない。だから君を指導しないから勝手にしなさい。まあ教科書としてこの本を読んでごらん。研究のやり方が書いてあるから。」と言われ、頂いた本がデカルトの方法序説であった。読んだけれどもどこに研究のやり方が書いてあるのかさっぱりわからない。こうして先生と私の付き合いが始まった。

先生は助教授時代、精力的に動物実験を主とする研究を数多くされていた。実験が始まると話しかけるどころか電話の取次ぎもできない雰囲気だった。自身の実験が一段落すると、冬眠から醒めた熊のごとく教室を見廻り、「何かいい話はあるか？」と皆に声をかけてこられた。院生が研究データを見せるとき、決まって「お前、それで何がわかるんや。」と答えられるのが常だった。また論文を読んでいるとき、「論文なんぞ家で読め。教室では実験をしろ。」とよく怒られた。先生はよく「論文の 99% は嘘で、どこが嘘でどこが真実かを考えて読め。」と言われていた。先生は他の医局がしているような抄読会は英語の勉強だけで意味がないと、抄読会は一度もしたことがなかった。

抄読会はなかったが、毎日教室員全員が参加する昼食時に、先生がその時々の時事ネタを世間と全く異なる論評をして、皆がそれを覆そうとする、一風変わった議論をよく行った。大抵は先生の論理に負かされるのであるが…。以前テレビで「ハーバード大学・サンデル教授の白熱教室」という番組があつたがそれに近いかと思う。最初は昼食時の世間話かと思っていたが、実はそれは先生が留学先で行っていた、考察力をつける訓練だったことが後にわかつた。

先生は実験の方法や手順は全く教えず、尋ねると「自分で考えろ。」と突き返されることが常だったが、研究・仕事に対する姿勢についてはよく教えて頂いた。それらをまとめるとことわざ辞典が一冊できるほどであるが、そのごく一部を紹介すると、「病理診断、特に良性・悪性の判断は自分の直観力を信じろ。」、「研究・仕事は自分の努力が及ばない、他人の手を借りなければいけない事から始めろ。」、「実験をする日は他の雑用を入れず、前の晩しっかり睡眠を取り。」、「消耗品は two-bin 法（當時在庫を一つ確保しておく）で揃えておくこと。」、「教室では実験など教室でしかできないことをやり、家でできることは家でやれ」等々。

先生は「褒められて喜ぶのは小学生まで。」と、あまり人を褒めることはしなかったが、一度だけ褒めて頂いたことがあった。私事ながら、私が教授（現名誉教授）中田勝次先生から与えられた研究テーマが、敗血症の主因であるエンドトキシン血症において肝臓にどのような循環障害が起きるのか、生体顕微鏡（光源が胃カメラの光ファイバーで出来ている光学顕微鏡と思ってください）でラットの肝臓を観察することであった。循環障害はラットにエンドトキシンを投与して 2 時間以内に発生することがわかり、その時間帯を主に観察すれば良いわけだが、言葉は易し行うは難しく、中々うまくいかない。特に循環障害の発生した瞬間の写真撮影が難関で、実験開始 3 年目の 1 年間は土日おろか年末年始もない状態であった。学会発表の 3 か月前になつてもまだ満足な写真撮影ができず、もう無理かと思い、先生に相談を行った。怒鳴られるか、演題を取り下げるかと言われるかと思っていたが、先生は今まで見たことのない笑顔で「今までよくここまで頑張ってきたなあ。」と言われた。その時の光景は今も鮮明に覚えている。先生の笑顔に圧倒されそれ以上相談できず、結局実験を継続した。写真撮影は学会の 2 週間に前に無事成功し、学会には何とか間に合った。

私の学会発表にも北は北海道・旭川から南は九州・佐賀まで、よく同行して頂いた。先生はいつも「学会なんか行かなくても論文を読んだらわかる。」と学会に行く時にはほやいていたが、私の発表では心もとないと思われたのだろう。先生は教室では想像もつかなかったが、実は健啖家でお酒も好きだった。中田先生が参加されている学会の時はまず一次会をして、中田先生と宿舎に帰つてから、しばらくしてから再集合して仕切り直しの二次会をするのが常だった（中田先生ごめんなさい）。

先生は長年母校に奉職されており、独特の母校愛を持っておられた。ある時、他の教室が拒否した大学の仕事を引き受けることになり、教室員が騒いでいる時に、「会社は雇われ従業員が見放しても、我々家族従業員は最後まで見放したらいいかん。長年、中田先生からそう指導されてきた。」と一喝されたことを覚えている。

しかし先生が何より愛していたのはご家族である。先生はどんなに仕事が立て込んでいても必ず午後 7 時には仕事を終え、ご家族と夕食を共にすることを心掛けておられた。また「自分の人生で一番しんどかった時は、カナダに留学して独りでいた最初の 8か月間。ワifが来てくれるのがもう少し遅かつ

たら、どうなっていたか。」とよく話されていた。

平成 6 年に病理学教室の教授に就任されてしまらく経った頃、先生は急性心筋梗塞を発症され、以後絶えず自身の健康を案じなければならなくなつた。その頃、私は臨床に移り、先生にお会いする回数が減っていたが、いつも疲れておられるようで、議論することも徐々に少なくなってきた。26 年に大学を退官される時には、恒例の最終講義はなかったと聞いている。

退官パーティーには来賓は参加されず、教室員と OB のみの心温まるパーティーだった。退官パーティーで「これからはジープを駆つて日本全国を廻るつもりだ。」と話されていたが、その希望を実行する前に病に倒れられた。最後は住み慣れた自宅で愛するご家族に看取られて旅立たれた。告別式では先生が可愛いお孫さん達にたいへん慕われていたことを知った。

今思うに先生が教えたかったことは何だったのだろうか？先生はよく「お前らに教えるのは『考え方』だけ。」と話しておられた。「考え方」とは抽象的な言葉であるが、先生は論文や教科書の受け売りや最新技術の模倣を嫌つておられた。むしろ、稚拙であつても独りで悩み抜いて考えて出した結論を尊ばれておられた。この悩み抜いて考える過程こそが、先生の説く「考え方」ではなかつたのだろうか。

芝山先生は文字通り「孤高」を貫かれた人だった。大阪医科大学は創立 90 年となる歴史ある大学である。恣意的な意見で恐縮だが今まで芝山先生のような個性を持った指導者はいなかつただろうし、今後も現れないかもしれない。私も卒後 30 年近くなり、今まで良き上司、良き同僚に恵まれて何とかやってこられた。しかし先生から受けた薰陶が最も重いと考えている。いつの日か私も泉下の先生とお会いした時に、「お前、仁泉会ニュースにいろいろ書いていたな。ところで何かいい話あったか？」と尋ねられたら、堂々と応えられるような医師人生を私は送りたいと思っている。

去る 5 月 16 日、京都市内で故芝山雄老先生を偲ぶ会が病理学教室教授 廣瀬善信先生の司会で催されました。先生と親しかった方々のお話を聞き、改めて先生のご冥福をお祈りしました。合掌

本部だより

会員訃報

次の会員が亡くなられました。慎んでご冥福をお祈り致します。

事務局編集係

高医11期 古江不二海先生

平成27年1月28日老衰の為ご逝去(99歳)。

昭和16年卒。

鹿児島市にて産婦人科をご開業になり、88歳までのながきに亘り地域医療に貢献されました。引退後は畑作りと朝の新聞を楽しんでおられたとのことです。

ご遺族 長男 伸一郎様

高医11期 山崎秀夫先生

平成27年3月23日虚血性心疾患の為ご逝去(95歳)。昭和16年卒。

学生時代は卓球部に所属されておられました。戦後、大阪市住吉区にて耳鼻咽喉科をご開業になり、88歳まで現役として地域医療に貢献されました。仁泉会評議員としても会務運営にご尽力いただきました。

ご遺族 長男 俊一様

高医13期 須宮三良先生

平成26年11月17日心不全の為ご逝去(92歳)。昭和18年卒。

国立療養所高松病院(現国立病院機構高松医療センター)にて外科医として地域医療に携わられました。

ご遺族 妻 悅子様

高医17期 石井泰延先生

平成27年2月7日脳梗塞の為ご逝去(90歳)。昭和23年卒。

昭和25年1月より奈良県北葛城郡にて内科・小児科をご開業になりました。昭和63年及び平成5年に奈良県知事表彰を、平成4年に文部大臣表彰を受賞されるなど地域医療に尽力されました。現在医院は次男様が継承されておられるとのことです。

ご遺族 妻 智恵子様

高医19期 和田守一先生

平成27年2月24日老衰の為ご逝去(87歳)。昭和25年卒。

大阪市中央区にて内科を開業されました。現在はご子息様が医院を継承されておられます。

ご遺族 実子 正彦様

学部1期 川中久雄先生

平成25年4月25日悪性リンパ腫の為ご逝去(88歳)。昭和27年卒。

卒業後大阪大学医学部大学院博士課程に進みました。大阪市庁診療所にて所長をお務めになりました。

ご遺族 長男 琢治様

学部6期 岡田令一先生

平成27年5月19日老衰の為ご逝去(85歳)。昭和32年卒。

昭和34年より大阪警察病院皮膚科に勤務されました。昭和44年に堺市にて妙国寺前診療所を、昭和54年に同所にて岡田医院を開設されました。

ご遺族 長男 務様

学部6期 光吉善郎先生

平成26年10月18日肺炎の為ご逝去(87歳)。昭和32年卒。

佐賀市にて内科・外科をご開業になり地域医療に尽力されました。

ご遺族 妻 多恵子様

学部11期 中堀秀雄先生

平成27年5月12日敗血症の為ご逝去(80歳)。昭和37年卒。

卒業後京大産婦人科に入局されました。神戸中央市民病院でのご勤務を経て三木市にて中堀産婦人科(後に中堀クリニック)を開設されました。

ご遺族 長女 裕子様

学部17期 城戸栄爾先生

平成27年2月27日肺炎の為ご逝去(74歳)。昭和43年卒。

昭和53年11月1日に熊本県児湯郡にて内科・

循環器科を開業されました。「開業から今まで主人は楽しみながら仕事をして幸せに暮らしてまいりました。」との奥様のお言葉です。

ご遺族 妻 クニ子様

学部22期 山本康久先生

平成27年3月24日高血圧性心疾患の為ご逝去(68歳)。昭和48年卒。

卒業後川崎医科大学消化器外科に入局され、約30年間ご勤務になりました。助教授にてご退職の後、平成12年4月より三重県大西病院副院長として15年間地域医療に携わられました。ご遺族 長男 貴士様(学54期)

学部28期 伊藤光保先生

平成27年2月1日膵がんの為ご逝去(63歳)。昭和54年卒。

国家公務員共済組合連合名城病院内科医員、名古屋大学附属病院第2内科非常勤医員、半田市立半田病院内科部長を経て、愛知県東海市にて内科医院を開設されました。喘息の管理と呼吸器リハビリテーション、在宅ホスピスの出来る診療所を目指され、全国各地の団体とも交流を持ち、地域ケアを理想に活動を進めておられました。

ご遺族 妻 由紀様

学部38期 森脇恵太先生

平成27年4月15日脳症の為ご逝去(53歳)。平成元年卒。

京都伏見しみず病院にて勤務の後、大阪市中央区に森脇脳神経外科クリニックを開設されました。

ご遺族 妻 清子様



ご投稿のお願い

会員相互および母校とのコミュニケーションや情報交換の場として「仁泉会ニュース」を引き続き利用していただきたいと思っています。会員の先生方より本誌に対する忌憚のないご意見をいただき、同窓会の活動をさらに充実させていきたいと考えています。

下記の要領にて、多くの会員皆様からの投稿をお願いします。

- 支部会、クラス会、趣味の集会などの案内や報告
- 「仁泉ひろば」のコーナー
- 研究論文の要約(以前に他誌に投稿された内容でも結構です)
- 随想、紀行、写真、絵画、俳句、短歌、川柳などの趣味や特技
- 紹介したい店、場所、物など
- 本誌に取り上げて欲しい話題
字数には制限は設けません。葉書1枚、便箋1枚でも結構です。
- 広告について
会員自身が出される広告は現在100字程度までは無料です。内容は、人材募集、開業場所の紹介、医院承継、ブライダル、趣味の発表会の案内などです。詳細については事務局までお問い合わせ下さい。
(内容により有料の場合があります)

事務局編集係

編集部より

会費納入のお願い

年会費

平成 27 年度 10,000 円、平成 26 年度 10,000 円

平成 25 年度 10,000 円

納入のご協力をよろしくお願ひ致します。

事務局 会計係

原稿募集のお知らせ

仁泉会ニュースの原稿を募集しております。日々の診療で感じられた事、研究報告、趣味のお話やクラス会や支部会のご報告なんでも結構です。

ご投稿お待ちしております。

●46 卷 5 号（平成 27 年 9 月 1 日発行）

締切 平成 27 年 7 月末日

●46 卷 6 号（平成 27 年 11 月 1 日発行）

締切 平成 27 年 9 月末日

●送付先：仁泉会事務局 〒569-8686 高槻市大学町 2-7

E-mail : jimu@jinsenkai.net FAX : 072-682-6636

写真募集のお知らせ

上記「原稿募集」同様、誌面を彩るお写真も新たに募集します。季節の風景、お住まいの地域の情緒ある街並みなどをお送りください。なお、掲載時期及び掲載の有無に関してはご一任くださいますようお願い致します。



仁泉会総会懇親会 未掲載写真集！

ご参加くださった先生方
ありがとうございました

編集後記

今月号のトピックスとして、母校に設置された訪問看護ステーションの記事があります。行政は今後の医療体制として在宅医療・訪問診療・看護に重きを置く方針をとっていますので、時勢に即したものではないでしょうか。ひとくくりに在宅医療といつても様々なシチュエーションがあります。大変な事とは思いますが患者中心での活動を期待しております。

新たに 111 名の医学部新入生を迎えた入学宣誓式の模様も掲載いたしました。学生生活を謳歌しつつも、立派な医療人を目指してほしいと思います（仁泉会にも入会してくださいね）。

5 月 31 日に行われた仁泉会総会では、6 年間学長の重責を担ってこられた竹中洋先生（学 23 期）のご挨拶もございました。特に学生教育に対しての先生のご尽力に心から敬意を表します。

そのほか支部便りなどの記事を会員先生方に伝えることができ、編集担当としてうれしいかぎりです。今後ともよろしくお願ひ申し上げます。

（治）

勤務医師募集！

社会福祉法人 永寿福祉社会からのお願いです。

○老人保健施設永寿ケアセンター

雇用区分：嘱託従業員

勤務条件：応相談

休日：土曜日、日曜日

報酬：年間給与額 1,000 万円（応相談）

社会保険完備

7 月には大阪医大サービスと提携し

全国初のロボットリハビリセンターを開設致します。

お問い合わせをお待ちしております。

担当：施設長 石井

電話：06-6760-0710

目の前にはいない患者さんに

治したい

治してもらいたい

そんなお互いの想いをつなげるために

お役に立てることがあるかもしれません

...

0,1 knot

カンマ イチノット

冊子などの編集業務

パンフレット・名刺などのグラフィックデザイン

取材・執筆／写真撮影

クリエイティブディレクション一式

569-0012 大阪府高槻市高西町 24-7

tel...090 8284 9602 fax...072 655 8201

e-mail...0.1knot@tcn.zaq.ne.jp

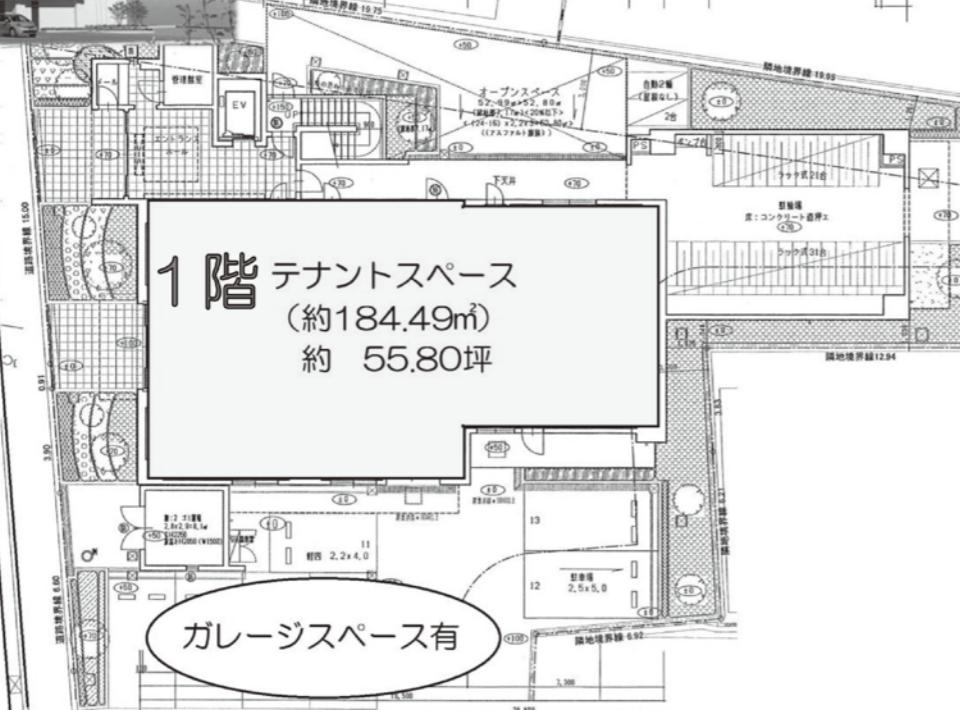
医療テナント 募集の案内



平成27年9月OPEN！可能！

場所:高槻市庄所町4-35
交通:JR高槻 徒歩18分

賃料・条件など
お問合わせ下さい



府道高槻茨木線

お問合せ先:仁泉会事務局まで(☎072-682-6166)



“大阪医科大学関係者の皆様”へ
FELICE で
フェリーチェ
理想の結婚

フェリーチェは、メディカル人材企業との提携を通じて、
医療の第一線でご活躍の医師・歯科医師を中心にお迎えし、
理想の結婚をプロデュースすることを目的として

創設された会員制クラブです。
万全の個人情報管理と医療業界を熟知した専任コーディネーター
だからできる「洗練された出逢い」をあなたに。

<成婚事例>

男 性	女 性
31歳 大阪市立大学 医師	28歳 京都府立医科大学 医師
33歳 大阪医科大学 医師	27歳 神戸薬科大学 薬剤師
34歳 慶應義塾大学 医師	26歳 神戸女子学院大学 英語教師
36歳 神戸大学 医師	33歳 関西医科大学 医師
38歳 京都府立医科大学 医師	29歳 近畿大学 会社員
37歳 愛知医科大学 医師	31歳 同志社大学 客室乗務員
41歳 関西医科大学 医師	33歳 京都女子短期大学 会社員
38歳 大阪大学 医師	32歳 兵庫医科大学 医師
37歳 近畿大学 医師	29歳 大阪医科大学 医師

フェリーチェは、個人情報保護を第一に、あえてオーソドックスなスタイルを守り、
医療業界を熟知した専任コーディネーターがご本人様のお人柄・ご要望をしっかりと把握し、
最適なお手相手をご紹介いたします。

- 入会資格
 - ◇男性25歳～50歳 医師、歯科医師
 - ◇女性20歳～37歳 医師または短大・専門学校卒以上
 - 男女ともに結婚をお考えの独身者の方
- ※上記条件を原則として、そのほか本クラブの独自の入会審査基準がございます。

**大阪医科大学関係者様
限定キャンペー**

詳しくはお問合せください。

詳しく述べはフリーダイヤル、またはホームページにて、フェリーチェのすべてがわかる資料をご請求ください。
0120-683-156 www.felice.cc フェリーチェ 検索
※「フェリーチェ」で検索してください。

フェリーチェはおかげさまで創立12周年を迎えることとなりました。そして、約4000社ある事業者の中で「会員内容の的確さ」「スタッフのサポート体制」など
11項目からなる「顧客満足度の高い会社」2年連続総合1位（オリコン株式会社調べ）との評価をいただきました。

今後とも「真の顧客サービス」を目指し、皆さまのご結婚を全力でサポートさせていただきます。

無料 親御様向け説明会のご案内

- 開催日時：5月12日(火)、14日(木)、15日(金)、19日(火)、21日(木)、22日(金)、26日(火)、28日(木)、29日(金)、6月2日(火)、5日(金)、9日(火)、11日(木)、12日(金)
各日14:00～
- 会場：芦屋ラウンジ・銀座ラウンジ
- 専用ダイヤル：芦屋 0797-25-1076 / 銀座 03-6228-5720 (10:00～20:00、水曜定休日)

毎月1300件以上のお見合いをコーディネートしているプロフェッショナルがどんなご相談にもお応えします。

プライムマリッジ株式会社
www.prime-marriage.com

結婚相手紹介サービス業認証機構より適正な
サービス事業者として認証付与を受けています。
MISA 経済産業大臣認定
「認定個人情報保護団体」対象事業者
個人情報管理・プライバシー保護には
細心の注意を払っています。